

# データヘルス計画

## 第2期計画書

---

最終更新日：平成 30 年 09 月 27 日

明治グループ健康保険組合

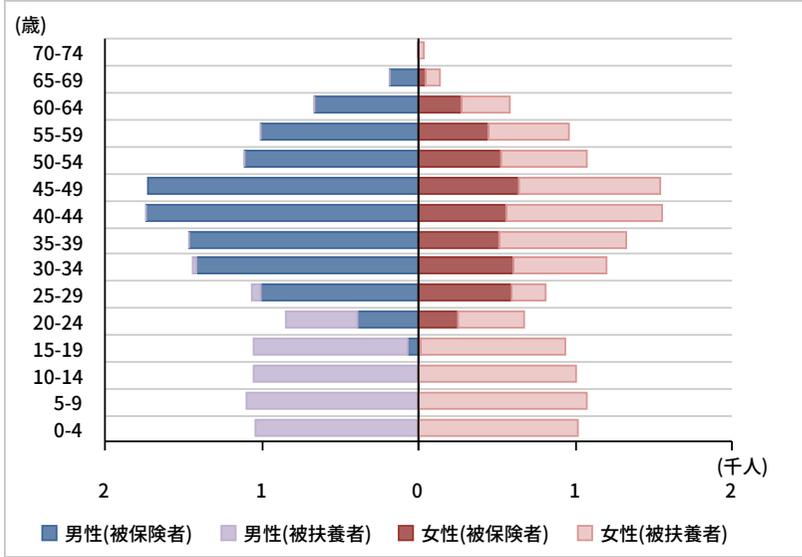
# STEP 1 - 1 基本情報

組合コード	23607		
組合名称	明治グループ健康保険組合		
形態	単一		
業種	食料品・たばこ製造業		
	平成30年度見込み	令和元年度見込み	令和2年度見込み
被保険者数 * 平均年齢は 特例退職被保険者を除く	15,400名 男性71.4% (平均年齢42.2歳) * 女性28.6% (平均年齢41.0歳) *	15,140名 男性70.3% (平均年齢42.7歳) * 女性29.7% (平均年齢41.7歳) *	14,903名 男性70.3% (平均年齢13.06歳) * 女性29.7% (平均年齢42.14歳) *
特例退職被保険者数	0名	0名	0名
加入者数	28,974名	29,053名	28,953名
適用事業所数	24カ所	24カ所	24カ所
対象となる拠点数	76カ所	76カ所	76カ所
保険料率 *調整を含む	97.0%o	97.0%o	97.0%o

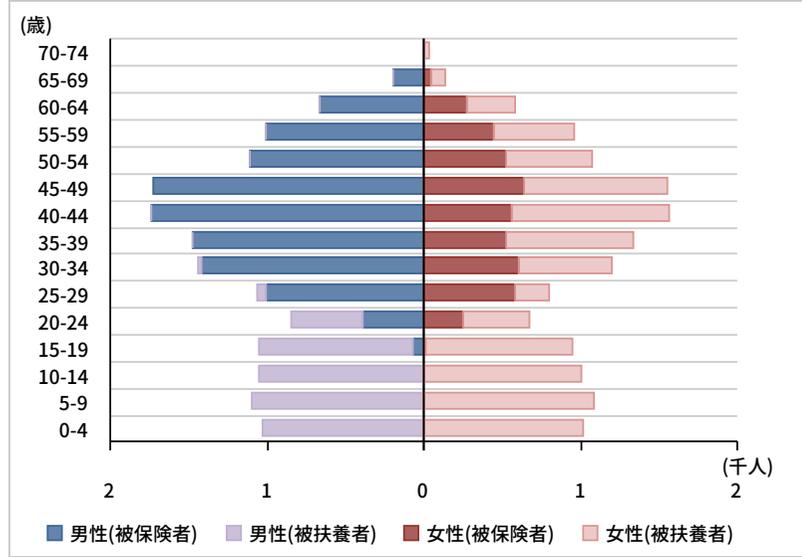
		健康保険組合と事業主側の医療専門職					
		平成30年度見込み		令和元年度見込み		令和2年度見込み	
		常勤(人)	非常勤(人)	常勤(人)	非常勤(人)	常勤(人)	非常勤(人)
健保組合	顧問医	0	1	0	1	0	1
	保健師等	2	0	2	0	1	0
事業主	産業医	1	74	1	75	1	75
	保健師等	9	0	9	0	9	0
		第2期における基礎数値					
特定健康診査実施率		全体		9,820 / 11,229 = 87.5 %			
(特定健康診査実施者数： 特定健康診査対象者数)		被保険者		7,961 / 8,096 = 98.3 %			
		被扶養者		1,859 / 3,133 = 59.3 %			
特定保健指導実施率		全体		236 / 1,760 = 13.4 %			
(特定保健指導実施者数： 特定保健指導対象者数)		被保険者		236 / 1,639 = 14.4 %			
		被扶養者		0 / 121 = 0.0 %			

		平成30年度見込み		令和元年度見込み		令和2年度見込み	
		予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)	予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)	予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)
保健事業費	特定健康診査事業費	19,110	1,241	19,880	1,313	19,880	1,334
	特定保健指導事業費	15,990	1,038	26,465	1,748	42,765	2,870
	保健指導宣伝費	34,253	2,224	34,838	2,301	25,421	1,706
	疾病予防費	463,505	30,098	492,874	32,554	482,481	32,375
	体育奨励費	7,236	470	7,236	478	6,236	418
	直営保養所費	0	0	0	0	0	0
	その他	1,500	97	2,600	172	2,600	174
	小計 …a	541,594	35,168	583,893	38,566	579,383	38,877
経常支出合計 …b	9,948,297	645,993	8,383,538	553,734	9,352,789	627,578	
a/b×100 (%)	5.44		6.96		6.19		

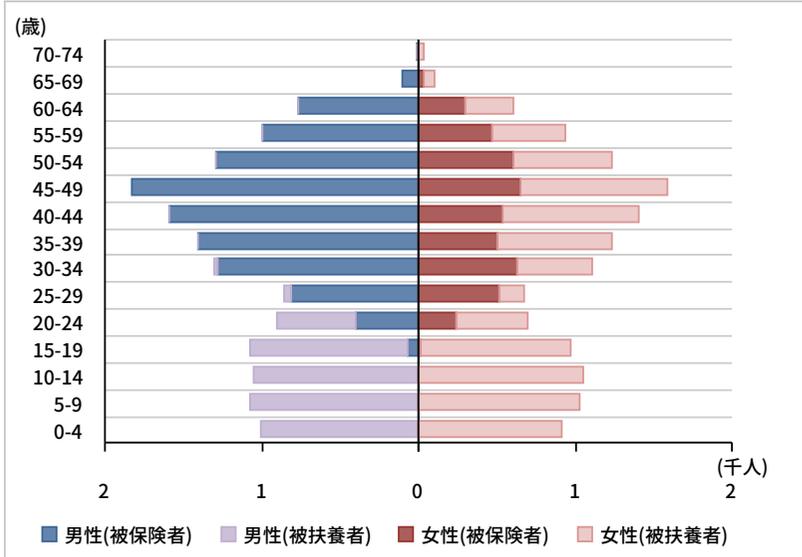
平成30年度見込み



令和元年度見込み



令和2年度見込み



## 男性（被保険者）

平成30年度見込み				令和元年度見込み				令和2年度見込み			
0～4	0人	5～9	0人	0～4	0人	5～9	0人	0～4	0人	5～9	0人
10～14	0人	15～19	64人	10～14	0人	15～19	64人	10～14	0人	15～19	66人
20～24	383人	25～29	1,002人	20～24	383人	25～29	1,002人	20～24	399人	25～29	808人
30～34	1,417人	35～39	1,468人	30～34	1,419人	35～39	1,469人	30～34	1,282人	35～39	1,401人
40～44	1,737人	45～49	1,722人	40～44	1,742人	45～49	1,723人	40～44	1,586人	45～49	1,828人
50～54	1,112人	55～59	1,007人	50～54	1,114人	55～59	1,006人	50～54	1,288人	55～59	991人
60～64	660人	65～69	188人	60～64	661人	65～69	189人	60～64	770人	65～69	106人
70～74	5人			70～74	5人			70～74	6人		

## 女性（被保険者）

平成30年度見込み				令和元年度見込み				令和2年度見込み			
0～4	0人	5～9	0人	0～4	0人	5～9	0人	0～4	0人	5～9	0人
10～14	0人	15～19	11人	10～14	0人	15～19	11人	10～14	0人	15～19	14人
20～24	252人	25～29	589人	20～24	253人	25～29	588人	20～24	236人	25～29	510人
30～34	606人	35～39	519人	30～34	604人	35～39	520人	30～34	627人	35～39	500人
40～44	559人	45～49	645人	40～44	561人	45～49	645人	40～44	540人	45～49	655人
50～54	524人	55～59	449人	50～54	525人	55～59	451人	50～54	605人	55～59	466人
60～64	271人	65～69	40人	60～64	271人	65～69	40人	60～64	299人	65～69	33人
70～74	3人			70～74	3人			70～74	0人		

## 男性（被扶養者）

平成30年度見込み				令和元年度見込み				令和2年度見込み			
0～4	1,038人	5～9	1,100人	0～4	1,028人	5～9	1,102人	0～4	1,001人	5～9	1,075人
10～14	1,053人	15～19	980人	10～14	1,054人	15～19	979人	10～14	1,057人	15～19	1,004人
20～24	454人	25～29	56人	20～24	453人	25～29	55人	20～24	507人	25～29	41人
30～34	22人	35～39	2人	30～34	22人	35～39	2人	30～34	21人	35～39	4人
40～44	2人	45～49	0人	40～44	2人	45～49	0人	40～44	2人	45～49	0人
50～54	2人	55～59	4人	50～54	2人	55～59	4人	50～54	2人	55～59	2人
60～64	2人	65～69	3人	60～64	2人	65～69	3人	60～64	5人	65～69	0人
70～74	0人			70～74	0人			70～74	2人		

## 女性（被扶養者）

平成30年度見込み				令和元年度見込み				令和2年度見込み			
0～4	1,017人	5～9	1,079人	0～4	1,013人	5～9	1,080人	0～4	917人	5～9	1,028人
10～14	1,004人	15～19	923人	10～14	1,005人	15～19	932人	10～14	1,049人	15～19	962人
20～24	424人	25～29	214人	20～24	425人	25～29	213人	20～24	455人	25～29	159人
30～34	592人	35～39	815人	30～34	590人	35～39	815人	30～34	482人	35～39	727人
40～44	999人	45～49	907人	40～44	1,003人	45～49	911人	40～44	870人	45～49	933人
50～54	554人	55～59	513人	50～54	553人	55～59	512人	50～54	627人	55～59	463人
60～64	312人	65～69	96人	60～64	313人	65～69	96人	60～64	311人	65～69	65人
70～74	30人			70～74	30人			70～74	32人		

基本情報から見える特徴

- 被扶養者の受診率が低い。
- 被扶養者の特定保健指導が未実施。

## STEP 1-2 保健事業の実施状況

### 保健事業の整理から見える特徴

- 1、重症化予防に対し、事業会社との連携が図れていない。
- 2、女子検診の受診率が伸びない
- 3、ジェネリック医薬品の使用割合において、事業所格差が大きい
- 4、被扶養者の特定健診受診率の向上がなかなか進まない。

### 事業の一覧

職場環境の整備	
保健指導宣伝	健康白書
加入者への意識づけ	
保健指導宣伝	機関誌発行
その他	健康啓発セミナー
個別の事業	
特定健康診査事業	特定健診(被保険者)
特定健康診査事業	特定健診(被扶養者)
特定保健指導事業	特定保健指導
保健指導宣伝	ジェネリック差額通知
疾病予防	人間ドック
疾病予防	女子検診(単独婦人科検診)
疾病予防	主婦健診
疾病予防	家族健診
疾病予防	生活習慣病健診
疾病予防	歯科検診
疾病予防	インフルエンザ予防接種費用補助
疾病予防	健康相談
疾病予防	電話健康相談
疾病予防	重症化予防対策
体育奨励	スポーツ助成奨励費
体育奨励	スポーツクラブ法人契約
体育奨励	ウォーキング
その他	契約保養所
予算措置なし	家庭常備薬の斡旋
事業主の取組	
1	定期健康診断
2	雇入時健康診断
3	特定業務従事者の健康診断
4	精検・再検等の二次検診費用負担
5	人間ドック費用負担
6	産業医による施策

※事業は予算科目順に並び替えて表示されています。

予算科目	注1) 事業分類	事業名	事業の目的および概要	対象者					事業費(千円)	振り返り			注2) 評価
				資格	対象事業所	性別	年齢	対象者		実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
職場環境の整備													
保健指導宣伝	1	健康白書	【目的】 事業主における従業員の健康状況の特徴の認知。当組合が実施する必要な健康対策への協力・参加。 【概要】 事業所ごとの従業員の健康状況等をまとめた健康白書を平成29年度を目標に作成し、労働安全衛生委員会で報告するなど、事業主と従業員に関する健康状況を共有する。	被保険者 被扶養者	全て	男女	18 ～ 74	全員	1,600	昨年と同様に、継続的变化分析「2017健康レポート」を作成。（健保全体版（株明治版、ファルマ版、グループ会社版） 「健康重点課題」作成完了（第二期データヘルス計画作成に活用）	健康白書作成に向けての基本形が完成。	まだまだ情報の共有化が不足している。	4
加入者への意識づけ													
保健指導宣伝	2	機関誌発行	【目的】 情報発信、健康意識の醸成 【概要】 機関誌（健保の運営、収支、健康診断、健康情報及び公示）の発行（2回/年）	被保険者	全て	男女	18 ～ 74	全員	7,486	機関誌発行年2回 自宅に直接送付	・タイムリーな情報提供により健保が実施する保健事業の周知及び参加率の向上に寄与	・より組合員に興味をひかせる内容へと刷新する時期でもある。	4
その他	5	健康啓発セミナー	【目的】 健康増進教育 【概要】 外部業者を活用した健康啓発セミナーの開催援助	被保険者	全て	男女	18 ～ 74	全員	702	15事業所が開催	委託事業会社を活用した宣伝 被保険者のヘルスリテラシーの向上に寄与	認知度が低く、実施事業所数がまだ少ない。	2
個別の事業													
特定健康診査事業	3	特定健診(被保険者)	【目的】 特定健診の受診率向上 【概要】 事業主が行う定期健診と併せて共同実施	被保険者	全て	男女	40 ～ 74	全員	62,000	受診者数 8,460人 実施率97.2%	定期健診実施時に行う	退職者等定期健診未実施の者がいるため実施率100%は困難	4
	3	特定健診(被扶養者)	【目的】 特定健診の受診率向上 【概要】 契約している医療機関を紹介し、最寄の医療機関での受診を可能にしている	被扶養者	全て	男女	40 ～ 74	全員	23,700	受診者数 2,093名 (前年比+151人) 実施率 60.4% (前年比+1.8%)	7月時点で申込みが無い被扶養者に対し、受診勧奨ハガキを送付。 並行してアンケート調査を実施	事業所との協力体制が構築できていない。	3
特定保健指導事業	4	特定保健指導	【目的】 特定保健指導の実施率向上 【概要】 当組合の保健師、看護師により実施。外部に業務委託し実施。事業所の看護師により実施。	被保険者	一部の事業所	男女	40 ～ 74	全員	8,120	【動機付け支援】 実施者数 94名 改善率 (体重:-2.2%、腹囲:-1.4%) 【積極的支援】 実施者数: 160名 改善率 (体重:-2.6%、腹囲:-2.4%)	三年間のローテーションでの事業所実施。	計画目標値との乖離。	1
保健指導宣伝	8	ジェネリック差額通知	【目的】 加入者の医薬品窓口負担の軽減 【概要】 先発品からジェネリック医薬品に切り替えると500円以上窓口負担が減る加入者の自宅に通知	被保険者 被扶養者	全て	男女	18 ～ 74	基準該当者	854	年3回(3月、7月、11月)自宅送付 送付件数; 2,374件 ジェネリック医薬品置き換え率: 69.2% (2017/1) →74.2% (2018/3)	医療費適正化の意識の向上	事業所間格差が大きい	5
疾病予防	3	人間ドック	【目的】 受診率向上 【概要】 費用の一部補助(35歳以上)	被保険者 被扶養者	全て	男女	35 ～ 74	全員	134,755	受診者:4,690名 被保険者: 4,030名 【前年比+616名】 被扶養者: 660名 【前年比+52名】	事務代行の委託契約による契約先の拡充	—	5
	3	女子検診(単独婦人科検診)	【目的】 婦人科疾患の早期発見 【概要】 組合にて全額費用負担	被保険者	全て	女性	18 ～ 74	全員	12,285	受診者数 1,136名	定期健診時の同時開催が一部の事業所で実施することが出来た。	定期健診時の同時開催の拡大が課題	5
	3	主婦健診	【目的】 婦人科疾患の早期発見 【概要】 被扶養配偶者(女性のみ)を対象に実施。35歳以上は組合にて全額費用負担。35歳未満は被扶養者が3000円のみ負担。	被扶養者	全て	女性	18 ～ 74	基準該当者	44,166	受診者数2,076名 【前年比-78名】	受診勧奨はがきの送付	被保険者との連携が不足している。	4

予算科目	注1) 事業分類	事業名	事業の目的および概要	対象者					事業費(千円)	振り返り			注2) 評価
				資格	対象事業所	性別	年齢	対象者		実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
	3	家族健診	【目的】疾患の早期発見 【概要】35歳以上の被扶養者(主婦健診対象者以外)。組合にて全額費用負担。	被扶養者	全て	男女	35～74	基準該当者	498	受診者数：29名	事務代行の委託契約による契約先の拡充	被扶養者との連携が不十分	4
	3	生活習慣病健診	【目的】疾患の早期発見 【概要】任意継続被保険者を対象に実施。組合にて全額費用負担。	被保険者	全て	男女	18～74	基準該当者	741	受診者数：51名	事務代行の委託契約による契約先の拡充	任意継続者との連携が不十分	4
	3	歯科検診	【目的】う歯予防や口腔ケアの推進、歯科医療費の適正化 【概要】2年に1回受診できるよう実施。規模が大きい事業所は集団検診。その他は、ネットワーク検診で対応。組合にて全額費用負担。	被保険者	全て	男女	18～74	全員	3,297	受診者数：618名	対象事業が隔年で違うため人数が増えている	ネットワーク検診での受診率が低い	4
	3	インフルエンザ予防接種費用補助	【目的】インフルエンザ対策 【概要】1人1回1000円の費用補助。但し、12歳以下は2回まで費用補助。	被保険者 被扶養者	全て	男女	0～74	全員	11,752	実施者数：11,290名 【前年比-186名】	事前周知の徹底	インフルエンザの流行時期により接種者が上下する。	5
	4,6	健康相談	【目的】重症化対策 【概要】健診結果をもとに、当組合の保健師・看護師が事業所に出向き健康指導。	被保険者	全て	男女	18～74	基準該当者	12,965	事業所数：26事業所 面談件数：447名	事業所との綿密な連携	多数の事業所で健保の医療職が主体となっているため、フォローが不十分である。	4
	6	電話健康相談	【目的】重症化予防 【概要】電話による健康相談	被保険者 被扶養者	全て	男女	0～74	全員	2,107	電話相談件数：395件 【前年比-56件】 メンタルヘルスカウンセリング：35件 【前年比+5件】	認知度アップを目的としたポスター作製：450部	更なる認知度の向上	5
	4	重症化予防対策	【目的】重症化予防 【概要】ハイリスクで未受診者に対する受診勧奨	被保険者	一部の事業所	男女	18～74	基準該当者	0	モデル事業所を選定し実施 ・事業所とコラボ通知：51名 ・健康相談時に面談：14名 ・個人宅に通知：20名 合計85名	事業所を拡大	事業所を拡大するにあたり、産業医との連携が課題	4
体育奨励	8	スポーツ助成奨励費	【目的】健康増進 【概要】原則、事業所を単位として当組合が指定するスポーツを実施し、参加した被保険者1名につき1000円を奨励費として補助	被保険者	全て	男女	18～74	全員	2,514	実施事業所数：65事業所 【前年比+2事業所】 参加者2,534人	近隣事業所との合同開催により、小規模な事業所の被保険者も参加しやすくなっている	利用する事業所に偏りがある	4
	8	スポーツクラブ法人契約	【目的】健康づくり、体力づくり 【概要】スポーツクラブ2社と法人契約を締結し、会員価格での利用ができる。	被保険者 被扶養者	全て	男女	0～74	全員	2,236	利用者数 コナミ：870名 【前年比-210名】 セントラル：159名 【前年比-23名】	全国展開している施設との契約	特定の者しか利用していない	4
	8	ウォーキング	【目的】生活習慣病改善、運動習慣定着 【概要】2ヶ月間のウォーキングキャンペーン(9～10月)実施	被保険者	全て	男女	18～74	全員	11,684	参加者：7,658名 【前年比+289名】 参加率：49.5% 【前年比+2.0%】	事業所トップからの声掛け。	事業所間格差がある。	4
その他	8	契約保養所	【目的】リフレッシュ 【概要】被保険者・被扶養者の保養	被保険者 被扶養者	全て	男女	0～74	全員	1,199	利用者数 ハーヴェスト：817名 【前年比-60名】 ラフォーレ：1670名 【前年比+281名】	利用方法の簡便さ	効果検証ができない。	4
予算措置なし	-	家庭常備薬の斡旋	【目的】医療費の抑制 【概要】機関誌に低廉になる医薬品のパンフレットを同封し、家庭常備薬設置を図る	被保険者	-	男女	18～74	全員	0	申込者数：938件 【前年比-226件】	機関誌同梱による周知	効果検証ができない。	4

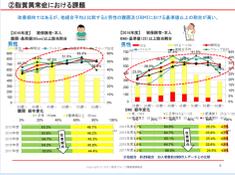
注1) 1. 職場環境の整備 2. 加入者への意識づけ 3. 健康診査 4. 保健指導 5. 健康教育 6. 健康相談 7. 訪問指導 8. その他

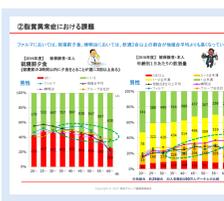
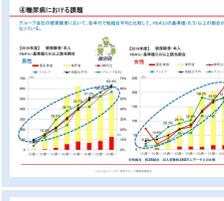
注2) 1. 39%以下 2. 40%以上 3. 60%以上 4. 80%以上 5. 100%

事業名	事業の目的および概要	対象者			振り返り			共同実施
		資格	性別	年齢	実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
<b>事業主の取組</b>								
定期健康診断	安衛法に基づく健診	被保険者	男女	18 ～ 74	・実施率100%の事業主多数あり。 ・上記以外でも98%以上。	・集団健診 ・事業所長の働きかけ ・人間ドックのデータを代用	予定日にキャンセルする者がある	有
雇入時健康診断	安衛法に基づく健診	被保険者	男女	18 ～ 65	—	—	—	無
特定業務従事者の健康診断	安衛法に基づく健診	被保険者	男女	18 ～ 65	該当者がいる事業所で実施	—	—	無
精検・再検等の二次検診費用負担	二次検診の励行	被保険者	男女	18 ～ 65	事業主の一部が実施	—	—	無
人間ドック費用負担	節目での人間ドックの励行	被保険者	男女	—	・事業主の一部が実施 ・45歳、50歳、55歳を対象に、人間ドックの本人負担分を事業主が負担する	—	—	無
産業医による施策	健康指導	被保険者	男女	18 ～ 65	・事業主の一部が実施 ・健診結果に基づく面談 ・健康講話	—	—	無

# STEP 1-3 基本分析

## 登録済みファイル一覧

記号	ファイル画像	タイトル	カテゴリ	コメント
ア		①平均年齢の上昇における課題	加入者構成の分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の加入者構成では、40～44歳被保険者の人数が突出。</li> <li>40歳以上が57%を超え、平均年齢が上昇し続けていることから、更なる医療費増加が見込まれる。</li> </ul>
イ		①平均年齢の上昇における課題	医療費・患者数分析	45～59歳代の被保険者の医療費が年々増加していて、40歳代の平均年齢上昇によるものと考えられる。
ウ		①平均年齢の上昇における課題	医療費・患者数分析	被保険者において、内分泌、循環器疾患等の生活習慣病に該当する医療費が年々増加している。
エ		①平均年齢の上昇における課題	医療費・患者数分析	被保険者において、高血圧、虚血性心疾患等の生活習慣病に該当する医療費が年々増加している。
オ		②脂質異常症における課題	特定健診分析	改善傾向ではあるが、他組合平均と比較すると男性の腹囲及びBMIにおける基準値以上の割合が高い。
カ		②脂質異常症における課題	特定健診分析	改善傾向ではあるが、他組合平均と比較して40～50歳代男性の中性脂肪及びγ-GTPにおける基準値以上の割合が高くなっていて、脂肪肝が多いと想定できる。

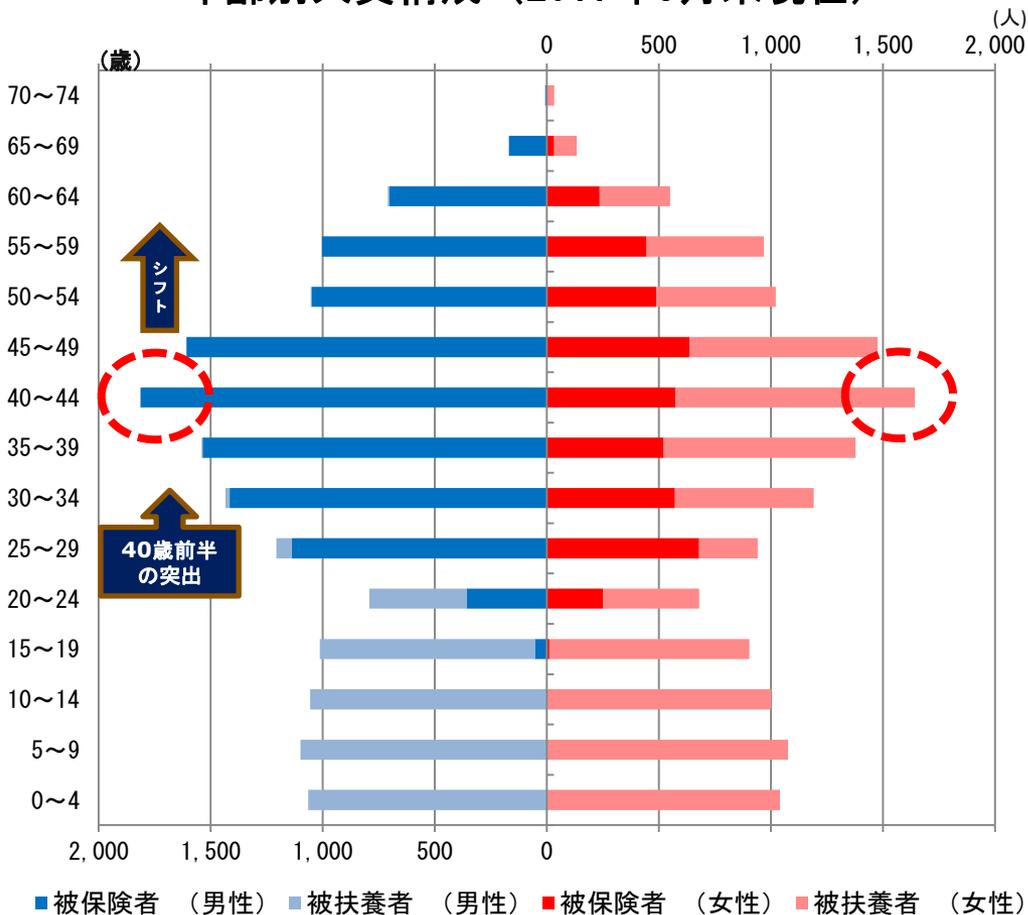
<p>キ</p> 	<p>②脂質異常症における課題</p>	<p>特定健診分析</p>	<p>ファルマにおいては、就寝前夕食、(株)明治においては、飲酒2合以上の割合が他組合平均よりも高くなっている。</p>
<p>ク</p> 	<p>②脂質異常症における課題</p>	<p>医療費・患者数分析</p>	<p>他組合平均と比較すると脂質異常症の受診率が高く、50歳以降で虚血性心疾患における受診者割合が高くなっている。</p>
<p>ケ</p> 	<p>③高血圧における課題</p>	<p>特定健診分析</p>	<p>ファルマを除く(株)明治、グループ会社の被保険者男性において、各年代で他組合平均と比較して、収縮期血圧の基準値(130)以上の割合が高くなっています。</p>
<p>コ</p> 	<p>③高血圧における課題</p>	<p>特定健診分析</p>	<p>血圧の基準値以上の割合が高いグループ会社において、朝食を抜くことが週に3回以上あると答えている割合が高めになっている。</p>
<p>サ</p> 	<p>③高血圧における課題</p>	<p>医療費・患者数分析</p>	<p>他組合平均と比較すると40～50歳以上での高血圧と60歳以降で脳血管疾患での受診率が高くなっている。</p>
<p>シ</p> 	<p>④糖尿病における課題</p>	<p>健康リスク分析</p>	<p>グループ会社の被保険者において、各年代で他組合平均と比較して、HbA1cの基準値(6.5)以上の割合が高くなっている。</p>
<p>ス</p> 	<p>④糖尿病における課題</p>	<p>医療費・患者数分析</p>	<p>他組合平均と比較すると40歳以上での糖尿病と45歳以上で腎機能障害での受診率が高くなっている。</p>

セ		⑤重症化防止の課題	特定健診分析	健診結果において、要治療域の緊急性が高いにもかかわらず未治療者が多数いる。
ソ		⑥ジェネリック医薬品への対応	後発医薬品分析	厚労省統計と比較するとジェネリック医薬品の使用割合が下回っている。
タ		⑦喫煙における課題	特定健診分析	男女とも、ファルマを除き、各年代で他組合平均との比較において喫煙率が高い。
チ		⑧被扶養者の健診受診率における課題	特定健診分析	被保険者に対して、被扶養者の健診受診率が低い。
ツ		⑧被扶養者の健診受診率における課題	医療費・患者数分析	被扶養者の45～49歳代と55歳以上で、他組合平均よりも一人当たり医療費が高く、50歳以降で医療機関への受診率が高い。
テ		⑨がんにおける課題	医療費・患者数分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>被保険者女性において、がん医療費が増加。</li> <li>乳がんや胃がんの受診率が増加。</li> </ul>
ト		⑨がんにおける課題	医療費・患者数分析	他組合平均との比較において、被保険者女性の乳がんの受診割合が高い。

# ①平均年齢の上昇における課題

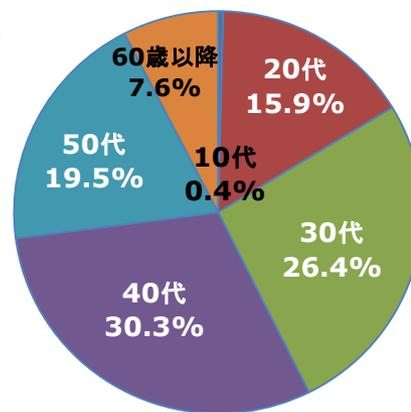
- ・現在の加入者構成では、40～44歳被保険者の人数が突出。
- ・40歳以上が57%を超え、平均年齢が上昇し続けていることから、更なる医療費増加が見込まれる。

## 年齢別人員構成 (2017年3月末現在)



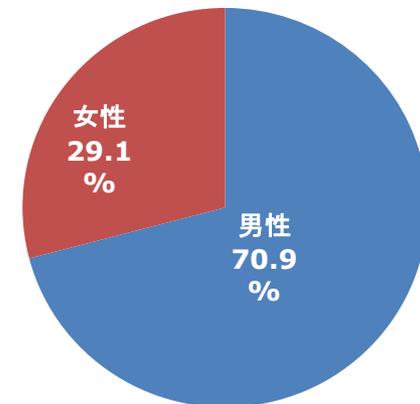
## 被保険者

### 2016年度末年齢別構成



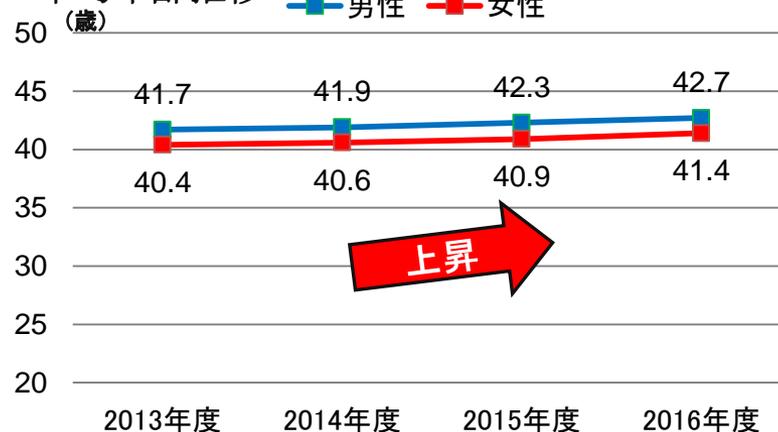
40歳以上割合 57.4%

### 性別構成



男性割合 70.9%

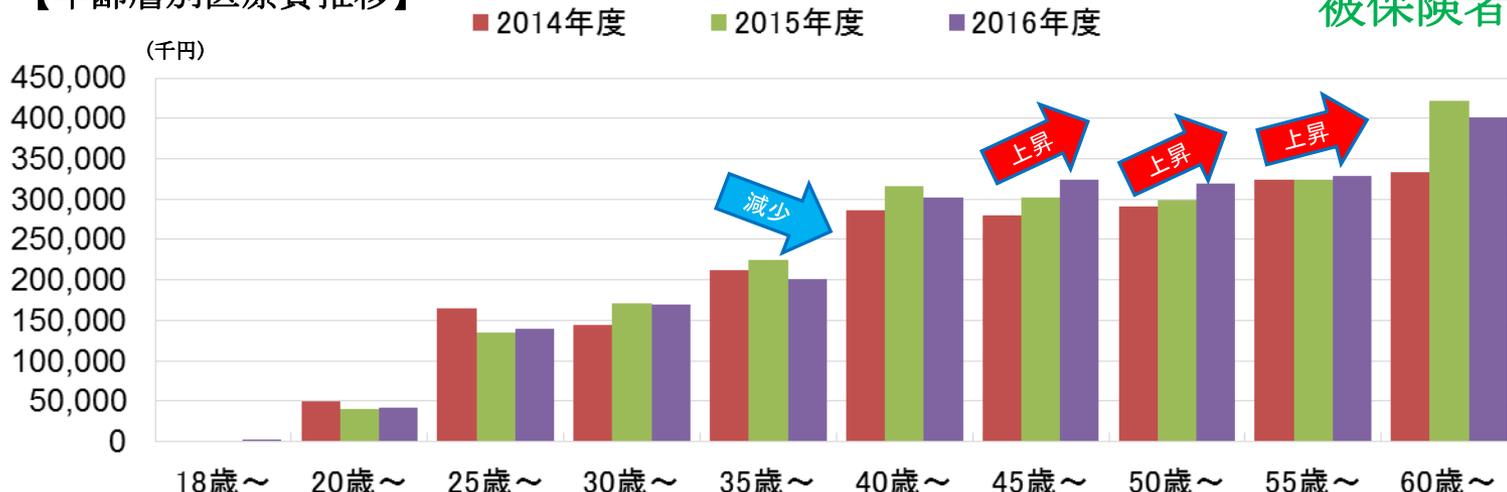
### 平均年齢推移



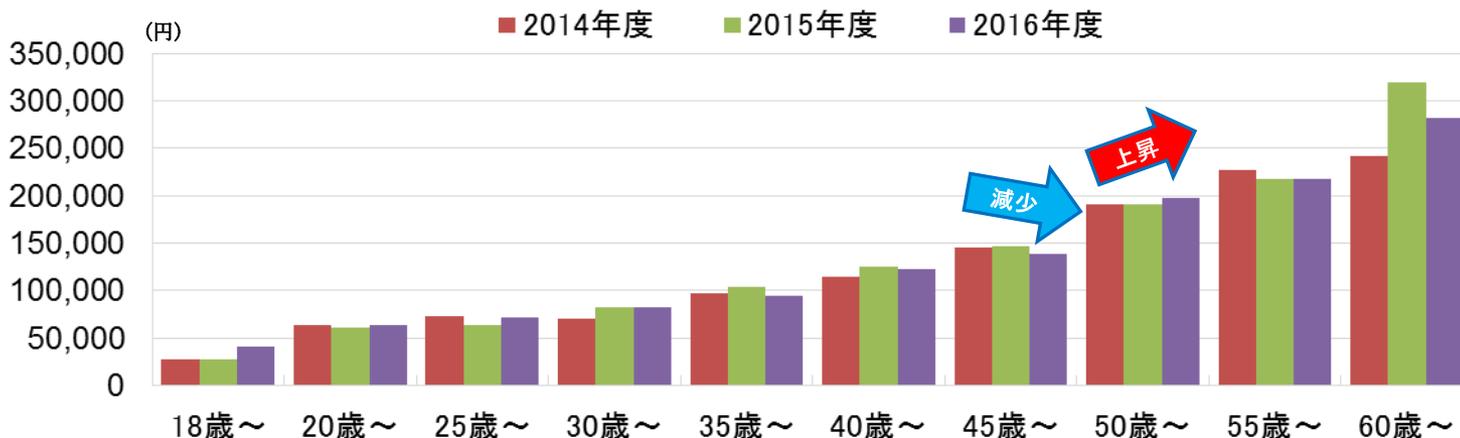
# ①平均年齢の上昇における課題

45～59歳代の被保険者の医療費が年々増加していて、40歳代の平均年齢上昇によるものと考えられる。

【年齢層別医療費推移】



【年齢層別一人当たり医療費推移】

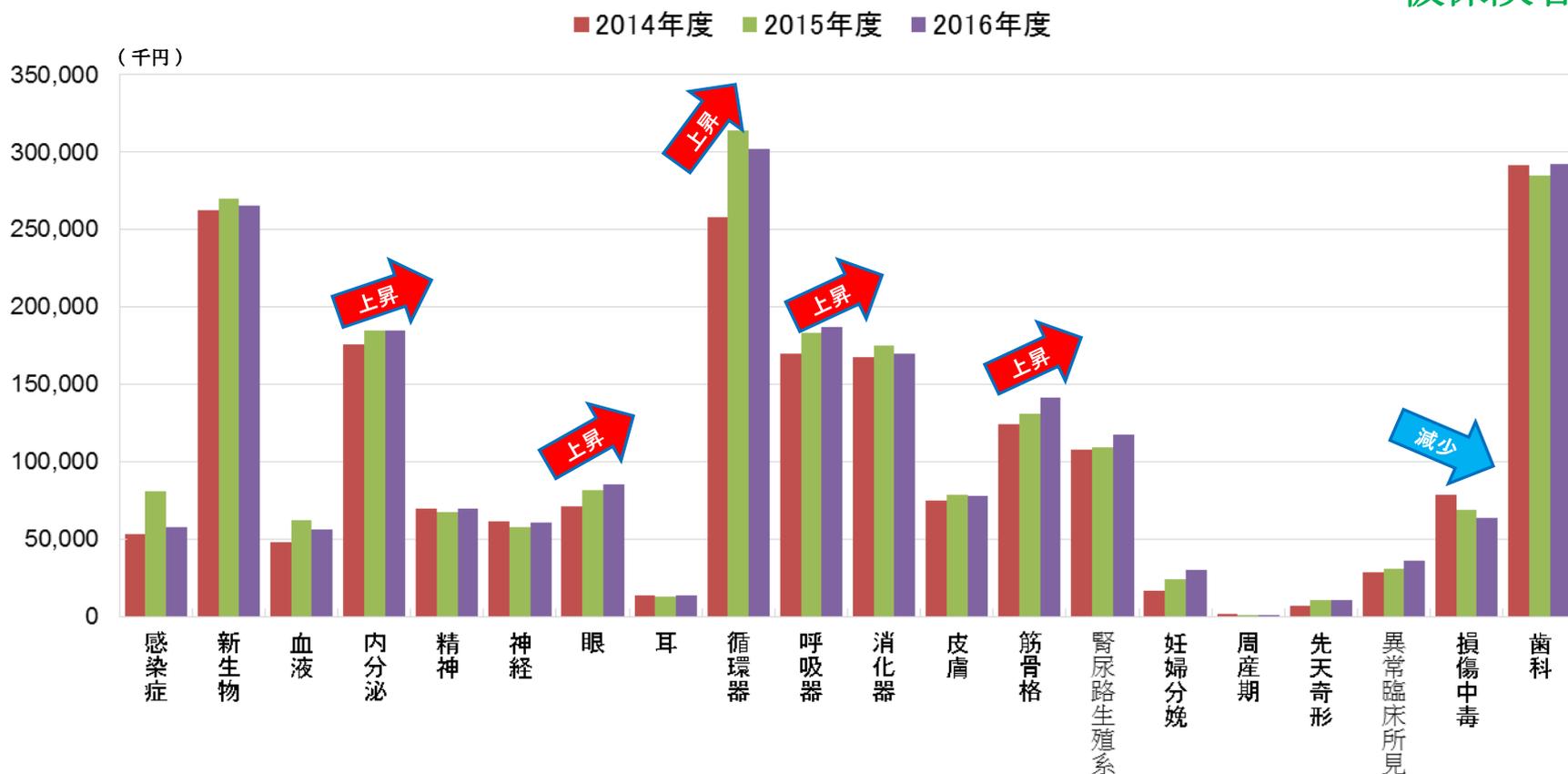


# ①平均年齢の上昇における課題

被保険者において、内分泌、循環器疾患等の生活習慣病に該当する医療費が年々増加している。

【疾病分類別医療費推移】

被保険者

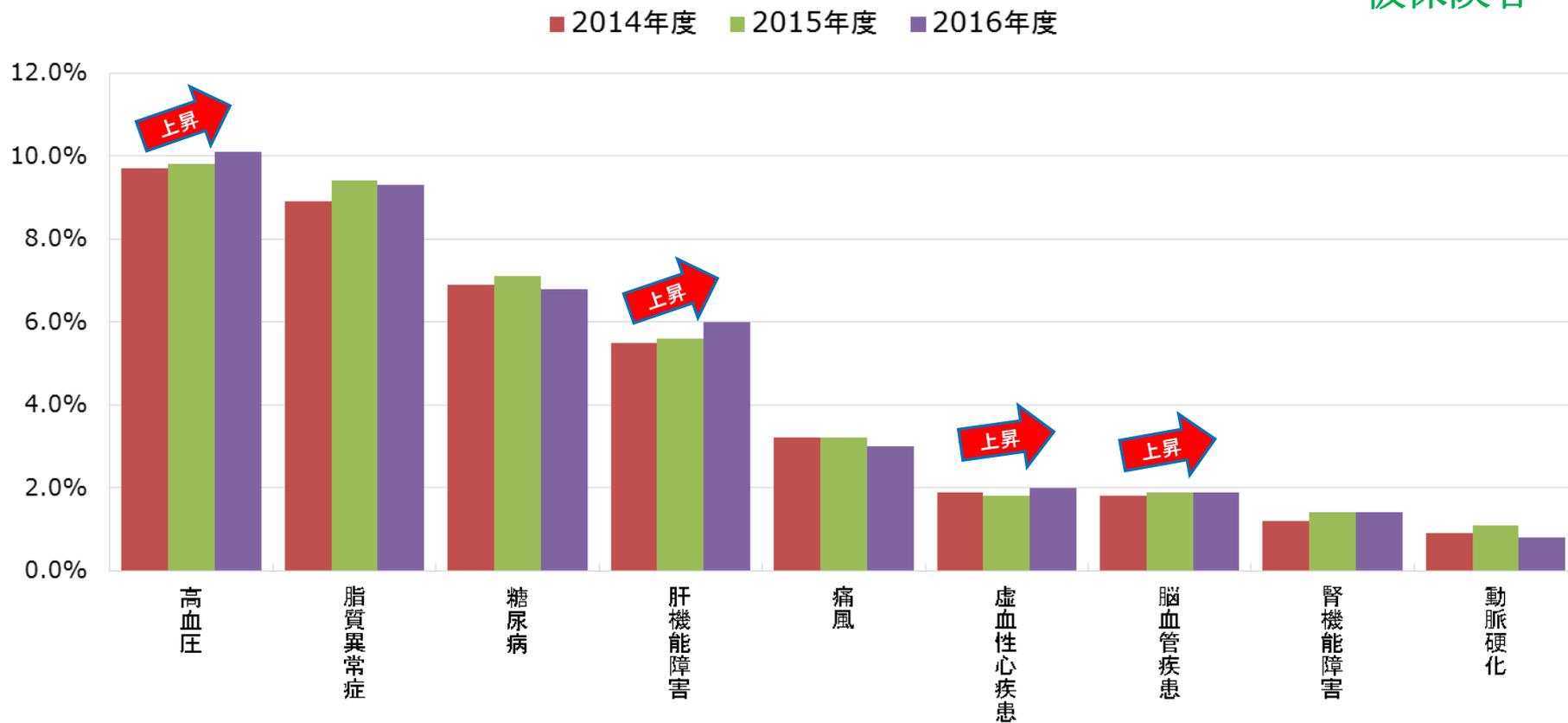


# ①平均年齢の上昇における課題

被保険者において、高血圧、虚血性心疾患等の生活習慣病に該当する医療費が年々増加している。

【生活習慣病の受診割合推移】

被保険者



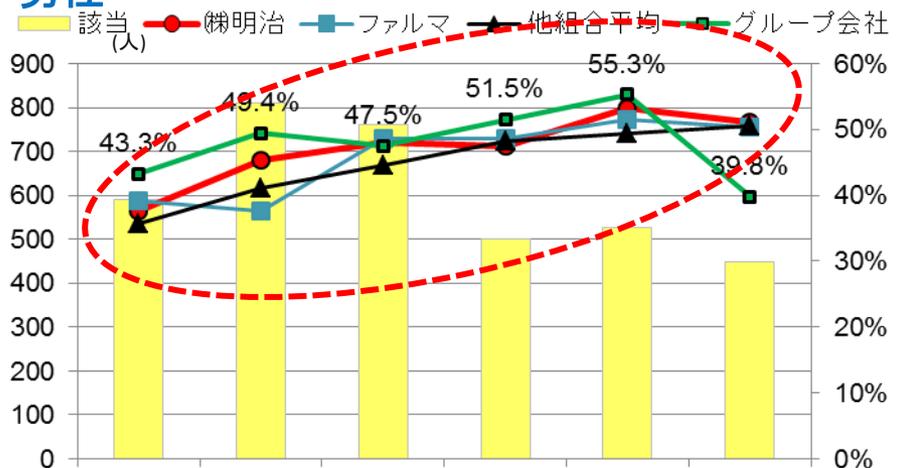
## ②脂質異常症における課題

改善傾向ではあるが、他組合平均と比較すると男性の腹囲及びBMIにおける基準値以上の割合が高い。



【2016年度】 被保険者・本人  
腹囲・基準値(85cm)以上該当割合

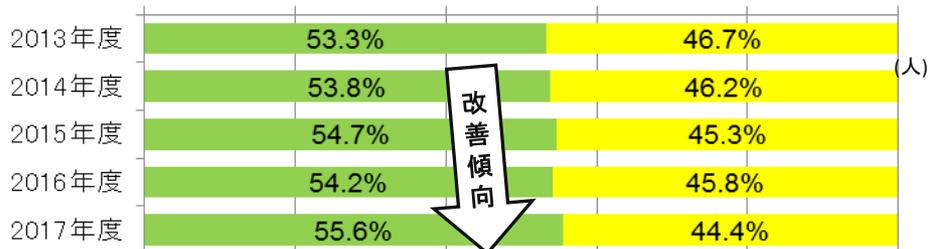
男性



腹囲 経年変化

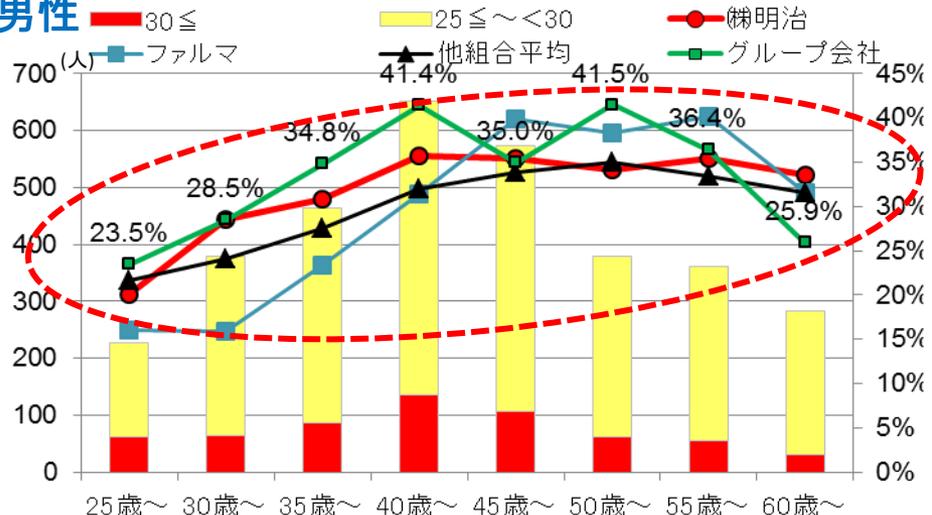
■ 1: 正常 <85cm ■ 2: 基準値以上 85cm<

0% 20% 40% 60% 80% 100%



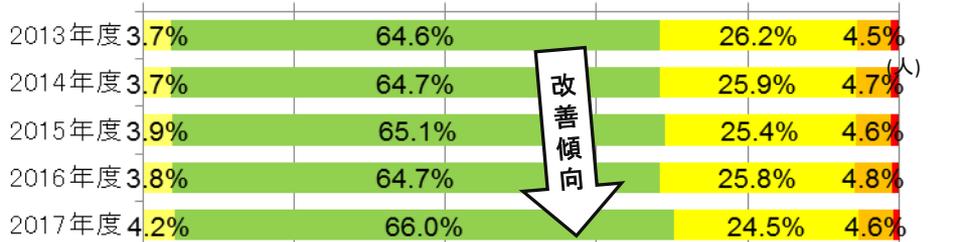
【2016年度】 被保険者・本人  
BMI・基準値(25)以上該当割合

男性



BMI 経年変化

■ 1: 低 <18.5 ■ 2: 正常 18.5 ≤ ~ <25 ■ 3: 肥満度Ⅰ 25 ≤ ~ <30  
■ 4: 肥満度Ⅱ 30 ≤ ~ <35 ■ 5: 肥満度Ⅲ 35 ≤ ~ <40 ■ 6: 肥満度Ⅳ 40 ≤

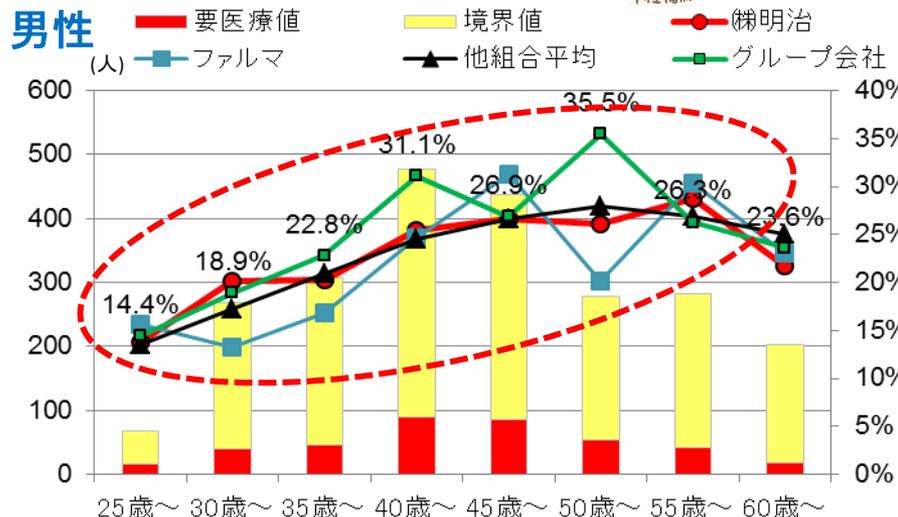


※他組合 約25組合 加入者数約150万人データとの比較

## ②脂質異常症における課題

改善傾向ではあるが、他組合平均と比較して40～50歳代男性の中性脂肪及びγ-GTPにおける基準値以上の割合が高くなっていて、脂肪肝が多いと想定できる。

【2016年度】 被保険者・本人  
中性脂肪・基準値(150)以上該当割合

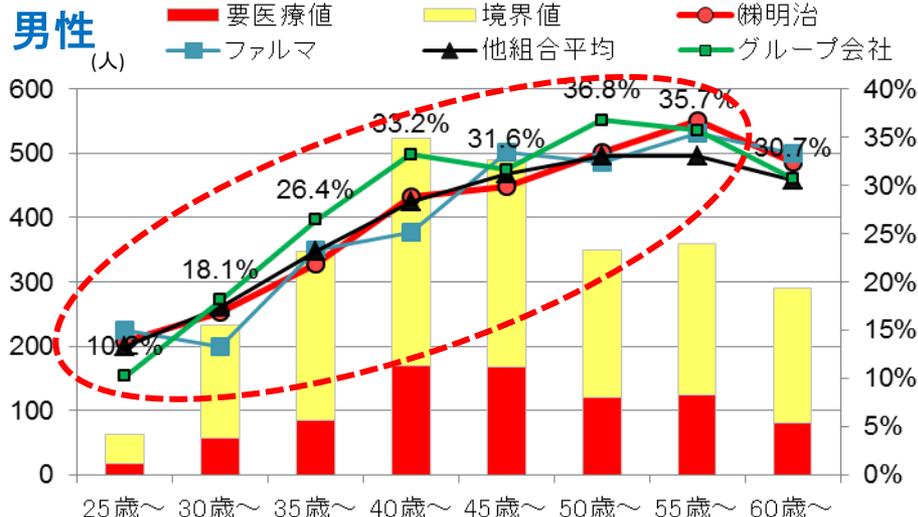


中性脂肪 経年変化

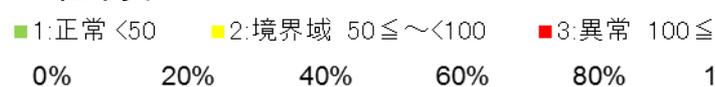


年度	1:低 <30	2:正常 30 ≤ ~ <150	3:境界域 150 ≤ ~ <300	4:異常 I 300 ≤ ~ <1000	5:異常 II 1000 ≤	合計 (人)
平成24年度	3	1,596	603	107		2,313
平成25年度	1	1,566	585	90		2,242
平成26年度	5	1,596	581	120		2,292
平成27年度	8	1,814	637	116		2,475
平成28年度	2	1,884	622	114		2,522

【2016年度】 被保険者・本人  
γ-GTP・基準値(50)以上該当割合



γ-GTP 経年変化



年度	1:正常 <50 (%)	2:境界域 50 ≤ ~ <100 (%)	3:異常 100 ≤ (%)	合計 (人)
2013年度	70.5%	20.1%	9.4%	2,242
2014年度	71.5%	19.5%	9.0%	2,292
2015年度	73.0%	18.4%	8.7%	2,475
2016年度	72.8%	18.8%	8.4%	2,522
2017年度	75.0%	17.6%	7.4%	2,522

※他組合 約25組合 加入者数約150万人データとの比較

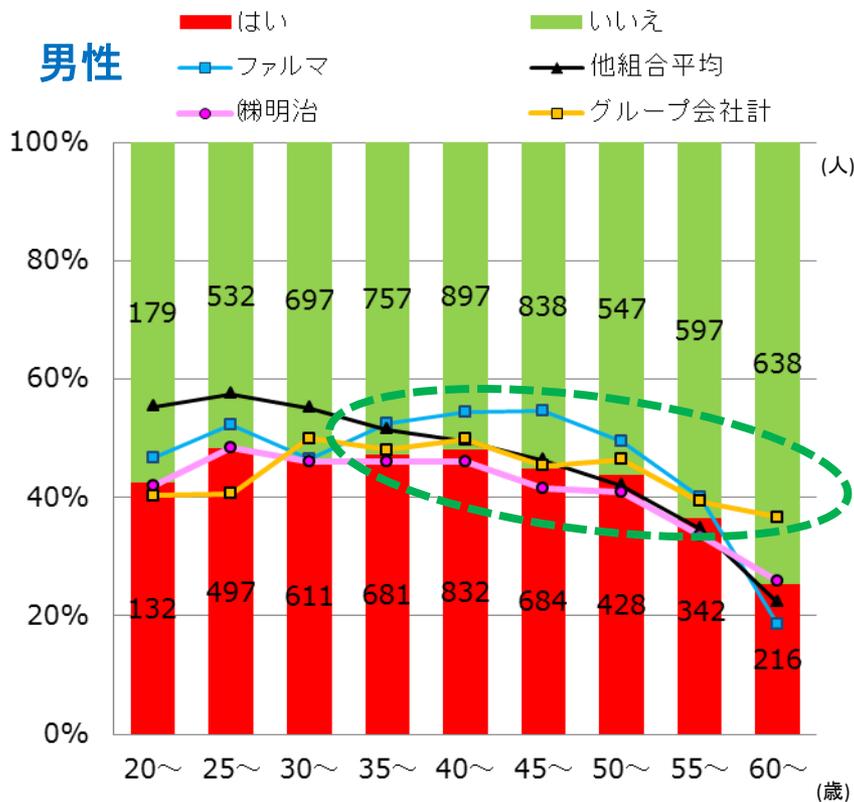
## ②脂質異常症における課題

ファルマにおいては、就寝前夕食、(株)明治においては、飲酒2合以上の割合が他組合平均よりも高くなっている。

【2016年度】 被保険者・本人

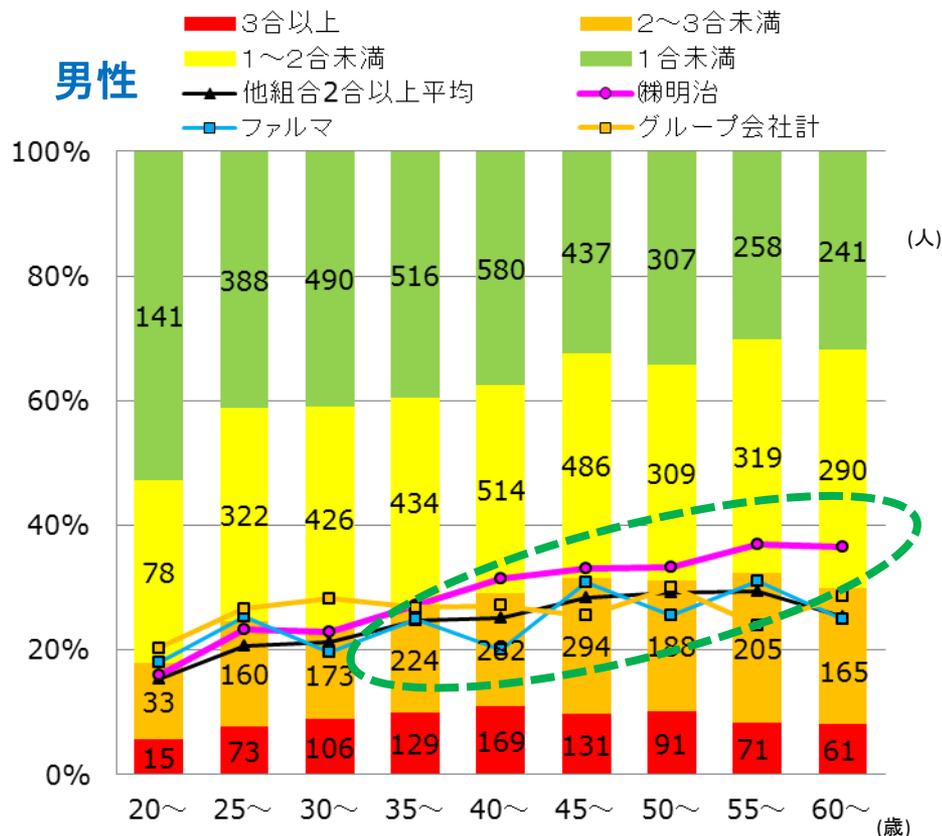
### 就寝前夕食

(就寝前の2時間以内に夕食をとることが週に3回以上ある)



【2016年度】 被保険者・本人

### 年齢別1日あたりの飲酒量



※他組合 約25組合 加入者数約150万人データとの比較

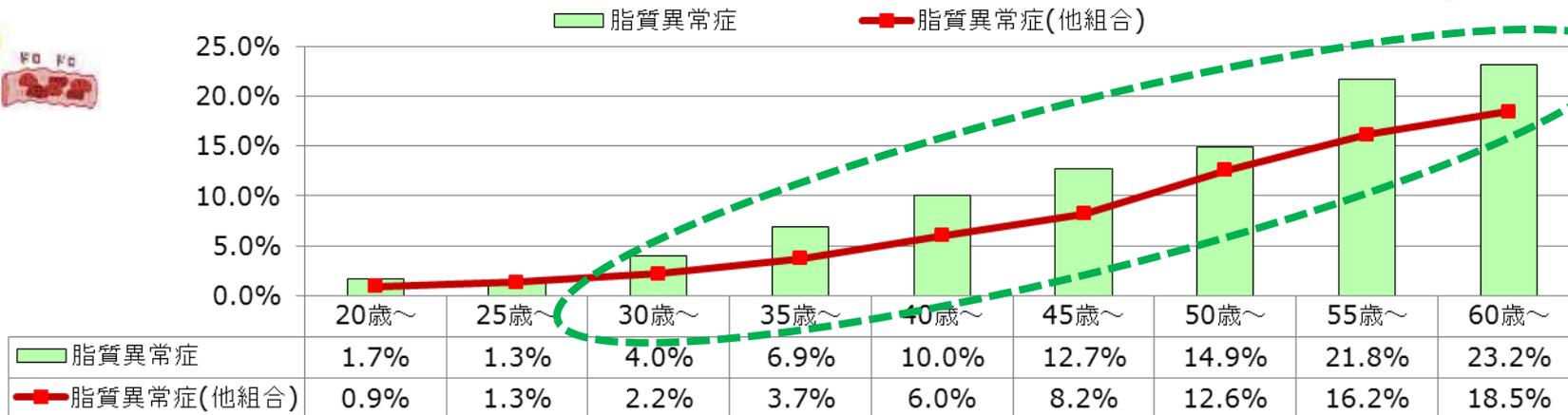
## ②脂質異常症における課題

### 脂質異常症と虚血性心疾患受診状況

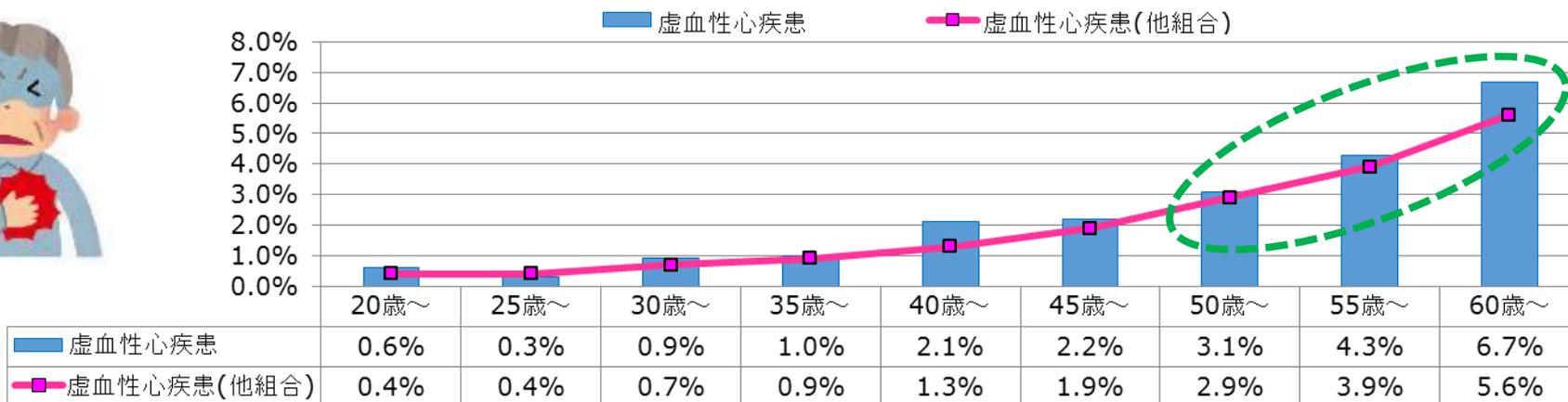
他組合平均と比較すると脂質異常症の受診率が高く、50歳以降で虚血性心疾患における受診者割合が高くなっている。

#### 年齢別脂質異常症受診割合「疑い疾患含む」 (2016年度)

被保険者



#### 年齢別虚血性心疾患受診割合「疑い疾患含む」 (2016年度)

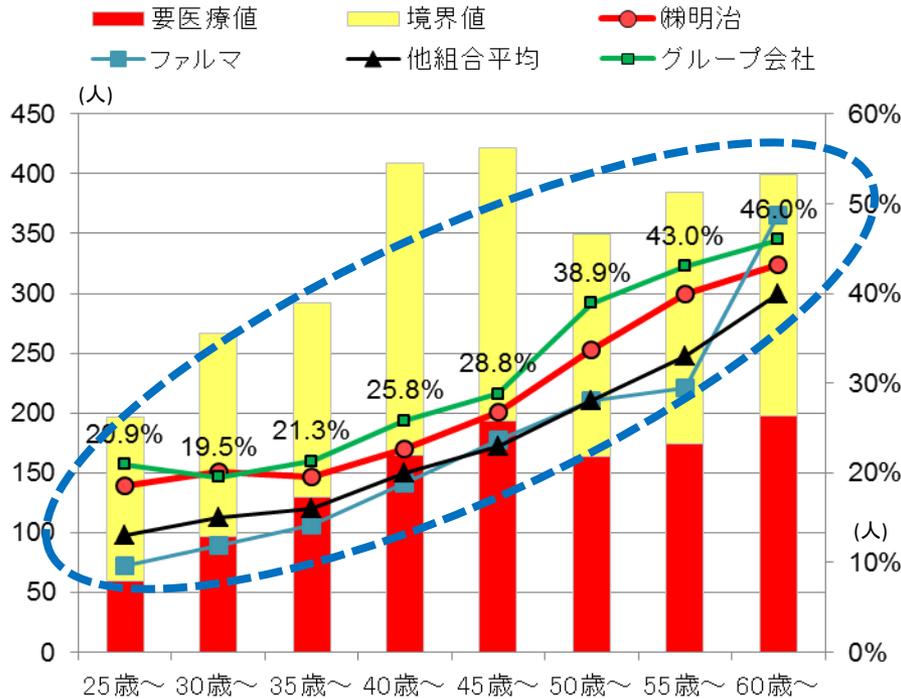


※他組合 約25組合 加入者数約150万人データとの比較

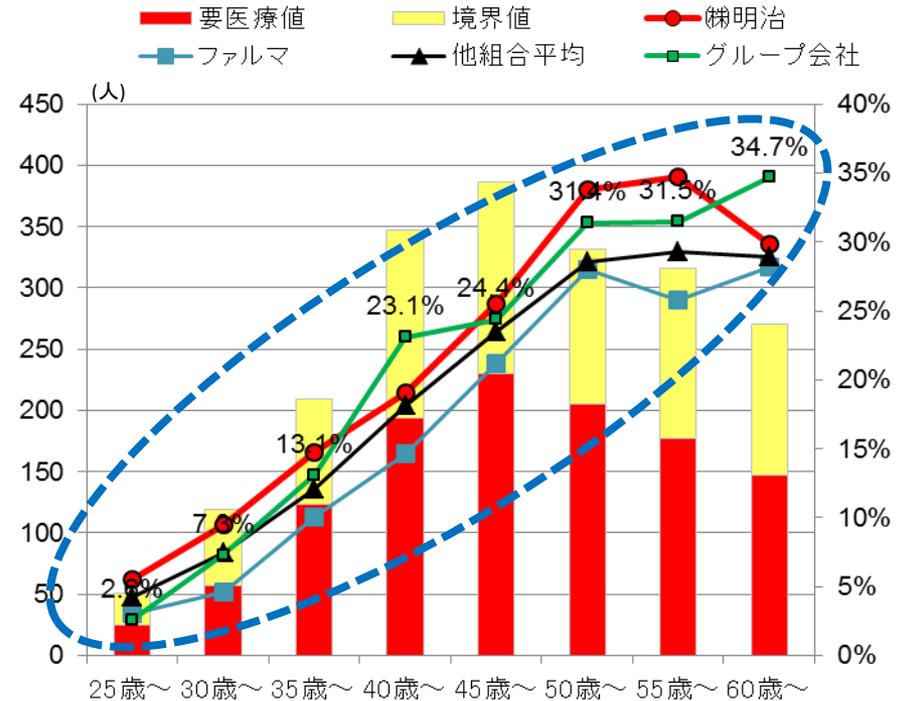
### ③高血圧における課題

ファルマを除く(株)明治、グループ会社の被保険者男性において、各年代で他組合平均と比較して、収縮期血圧の基準値(130)以上の割合が高くなっています。

【2016年度】 被保険者・本人  
収縮期血圧・基準値(130)以上該当割合  
男性



【2016年度】 被保険者・本人  
拡張期血圧・基準値(85)以上該当割合  
男性



※他組合 約25組合 加入者数約150万人データとの比較

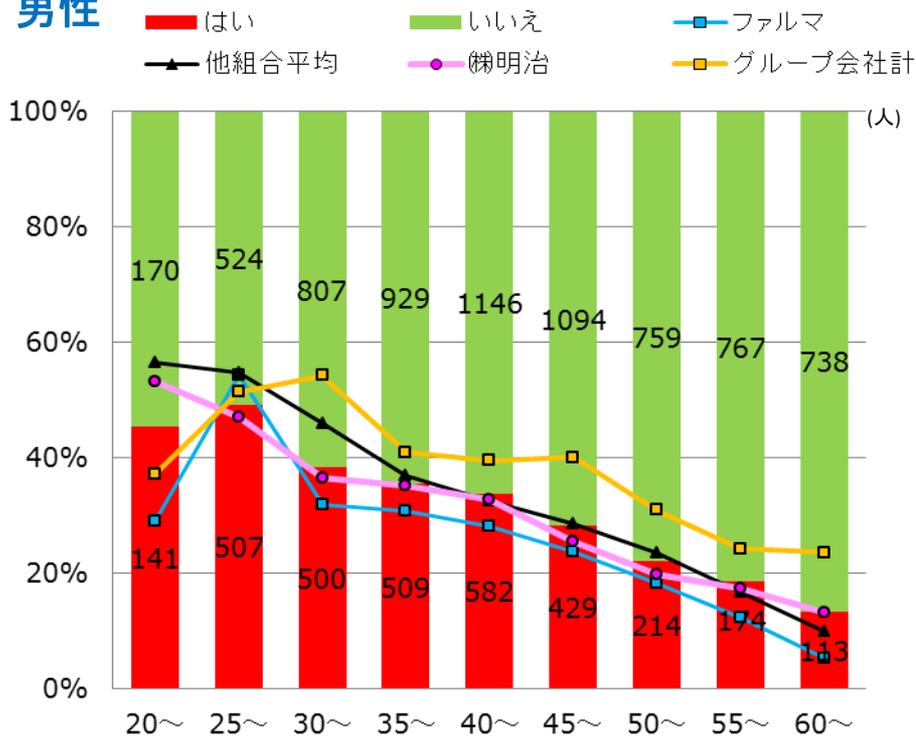
### ③高血圧における課題

血圧の基準値以上の割合が高いグループ会社において、朝食を抜くことが週に3回以上あると答えている割合が高めになっている。

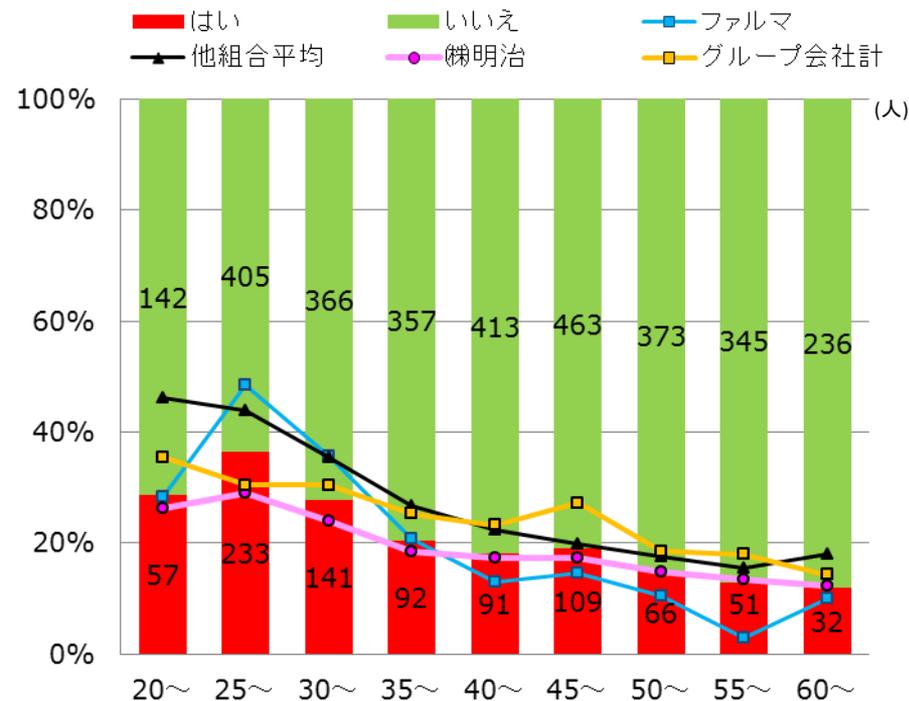
【2016年度】 被保険者・本人  
朝食抜き（朝食を抜くことが週に3回以上ある）



男性



女性



※他組合 約25組合 加入者数約150万人データとの比較

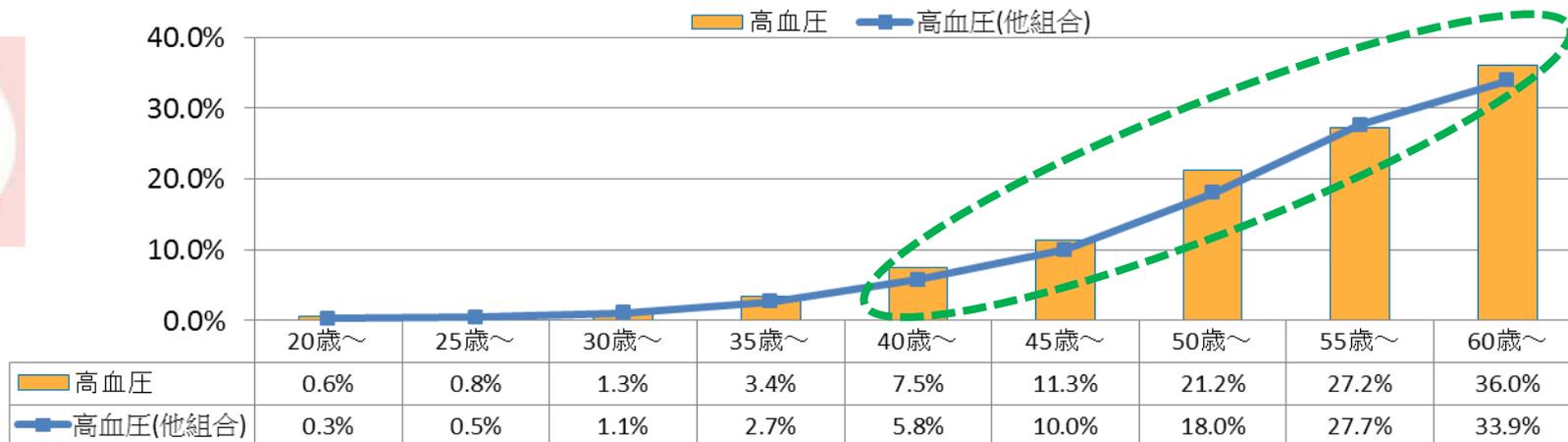
### ③高血圧における課題

#### 高血圧と脳血管疾患受診状況

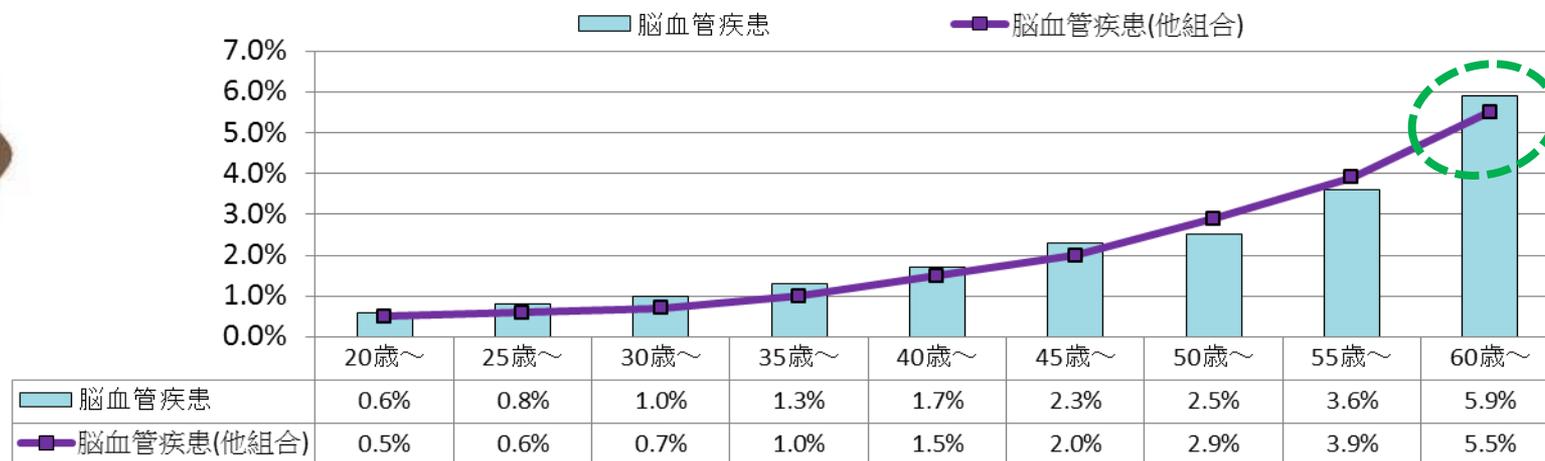
他組合平均と比較すると40～50歳代での高血圧と60歳以降で脳血管疾患での受診率が高くなっている。

年齢別高血圧受診割合「疑い疾患含む」 (2016年度)

被保険者



年齢別脳血管疾患受診割合「疑い疾患含む」 (2016年度)



※他組合 約25組合 加入者数約150万人データとの比較

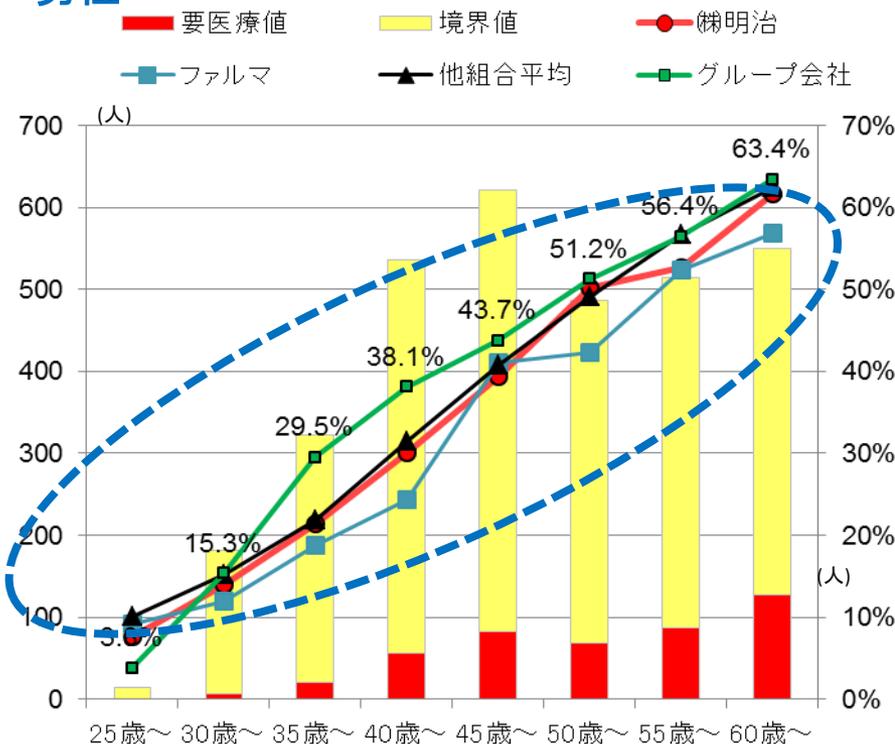
# ④糖尿病における課題

グループ会社の被保険者において、各年代で他組合平均と比較して、HbA1cの基準値(6.5)以上の割合が高くなっている。



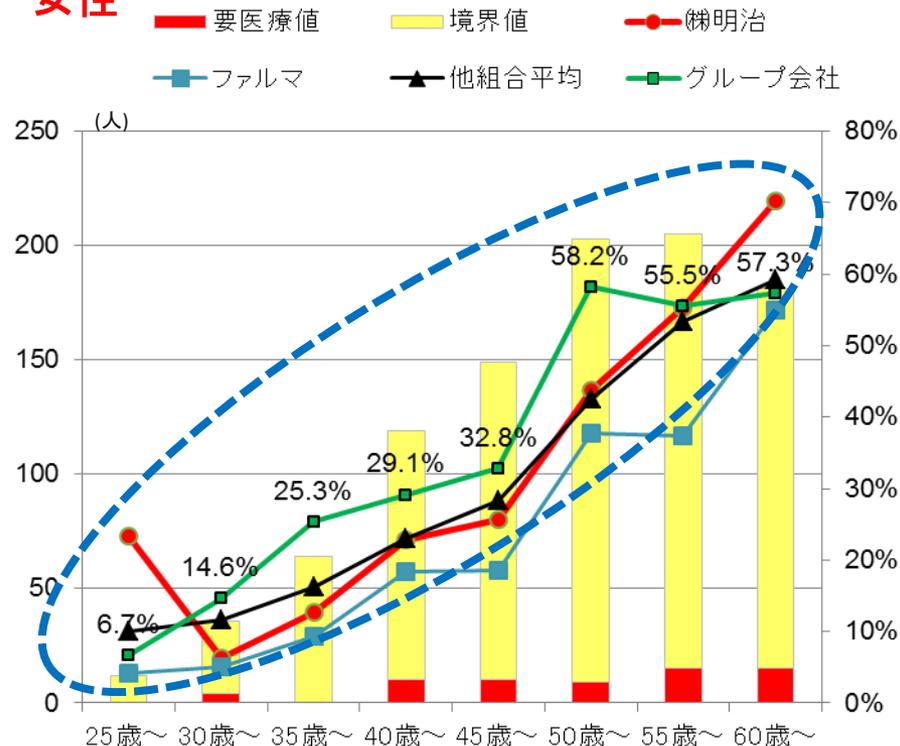
【2016年度】 被保険者・本人  
HbA1c・基準値(5.6)以上該当割合

## 男性



【2016年度】 被保険者・本人  
HbA1c・基準値(5.6)以上該当割合

## 女性



※他組合 約25組合 加入者数約150万人データとの比較

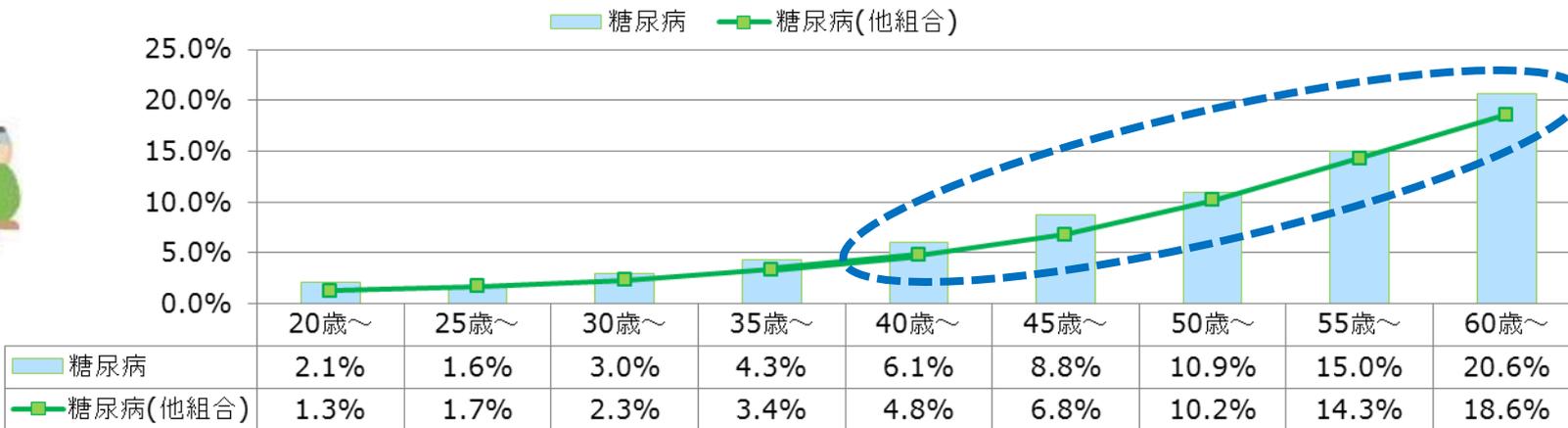
# ④糖尿病における課題

## 糖尿病と腎機能障害の受診状況

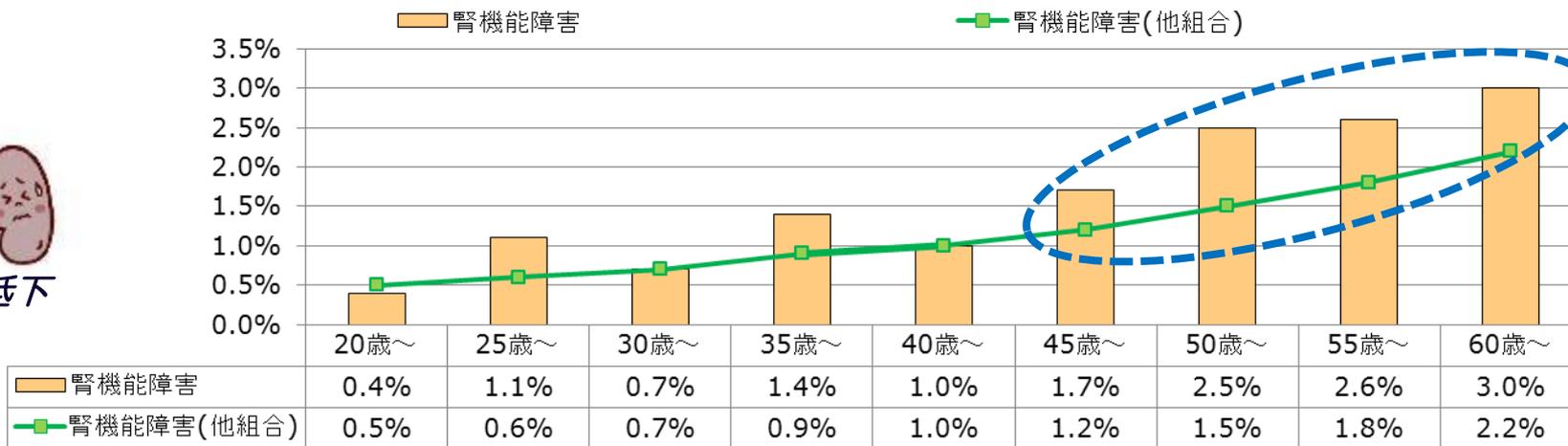
他組合平均と比較すると40歳以上での糖尿病と45歳以上で腎機能障害での受診率が高くなっている。

被保険者

年齢別糖尿病受診割合「疑い疾患含む」 (2016年度)



年齢別腎機能障害受診割合「疑い疾患含む」 (2016年度)



※他組合 約25組合 加入者数約150万人データとの比較

## ⑤重症化防止の課題

### 2016年度健診結果及び平成28年3月現在レセプト状況による重症化リスク該当人数

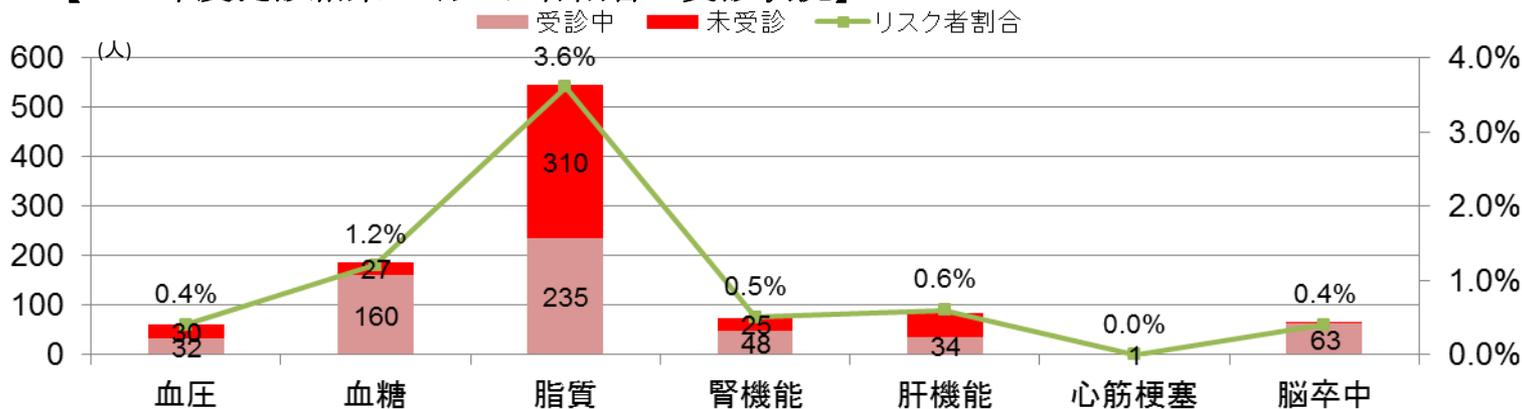
検査項目		明治グループ健保			
		検査結果	該当者	未治療 (※3)	受診中 (※4)
血圧	収縮期	180 ≤	23	9	14
	拡張期	110 ≤	50	24	26
糖代謝	血糖値	160 ≤	149	22	127
	HbA1c	8.0 ≤	128	21	107
	尿糖	3+以上	102	12	90
脂質代謝	中性脂肪	1000 ≤	17	8	9
	LDL-C	180 ≤	528	345	183
	HDL-C	<35	189	133	56
腎機能	e-GFR	<45	56	15	41
	尿蛋白	3+以上	21	11	10
肝機能	GOT	300 ≤	1	1	0
	GPT	300 ≤	2	2	0
	γ-GTP	500 ≤	19	10	9
リスクスコア発症 確率	心筋梗塞(※1)	5% ≤	1	0	1
	脳卒中(※2)	20% ≤	67	4	63



健診結果において、要治療域の緊急性が高いにもかかわらず未治療者が多数いる。

(※1) JALS: Japan Arteriosclerosis Longitudinal Study 動脈硬化による急性心筋梗塞リスクスコア (5年以内)  
 (※2) JPHC: 国立がん研究センター、国立循環器病研究センター、大学、研究機関、医療機関、全国11保健所などの多目的コホート共同研究 脳卒中リスクスコア (10年以内)  
 (※3) 未治療: 直近1年間で該当疾病のレセプト無し  
 (※4) 受診中: 直近半年間で該当疾病のレセプト有り

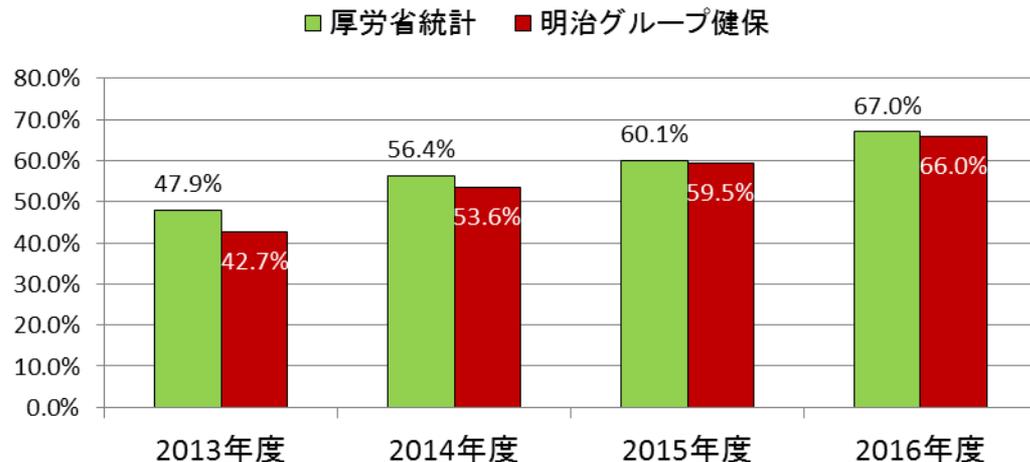
### 【2016年度健診結果ハイリスク者割合の受診状況】



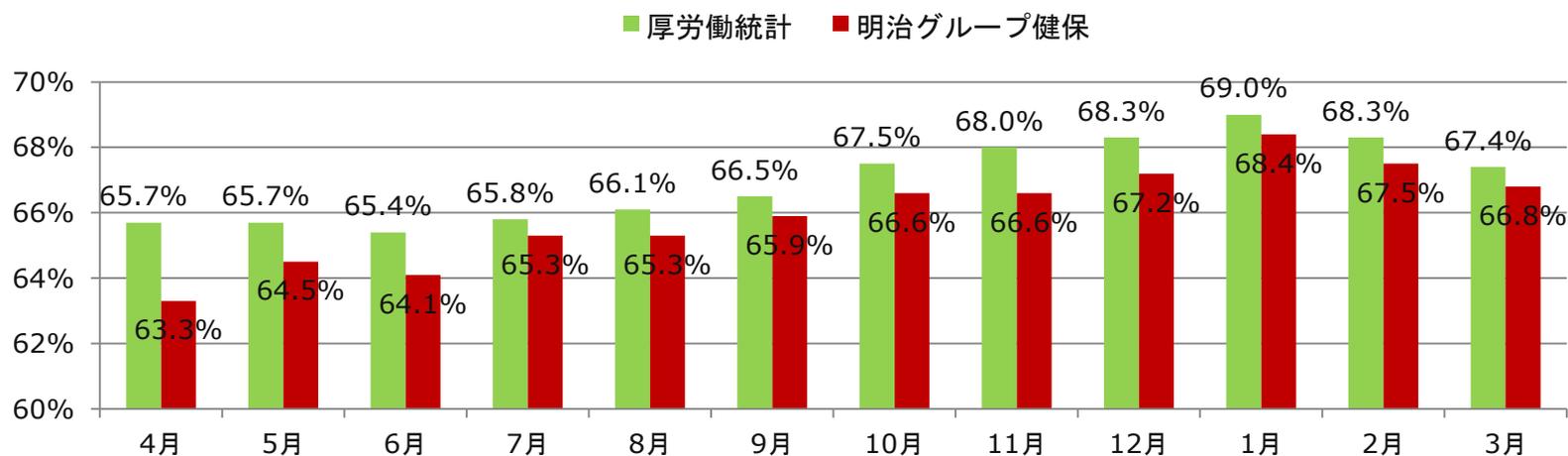
## ⑥ジェネリック医薬品への対応

厚労省統計と比較するとジェネリック医薬品の使用割合が下回っている。

### 調剤医療費の動向(厚生労働省保健局調査課)との後発品使用割合推移比較



### 調剤医療費の動向(厚生労働省保健局調査課)との月別後発品使用割合推移比較 (2016年度)



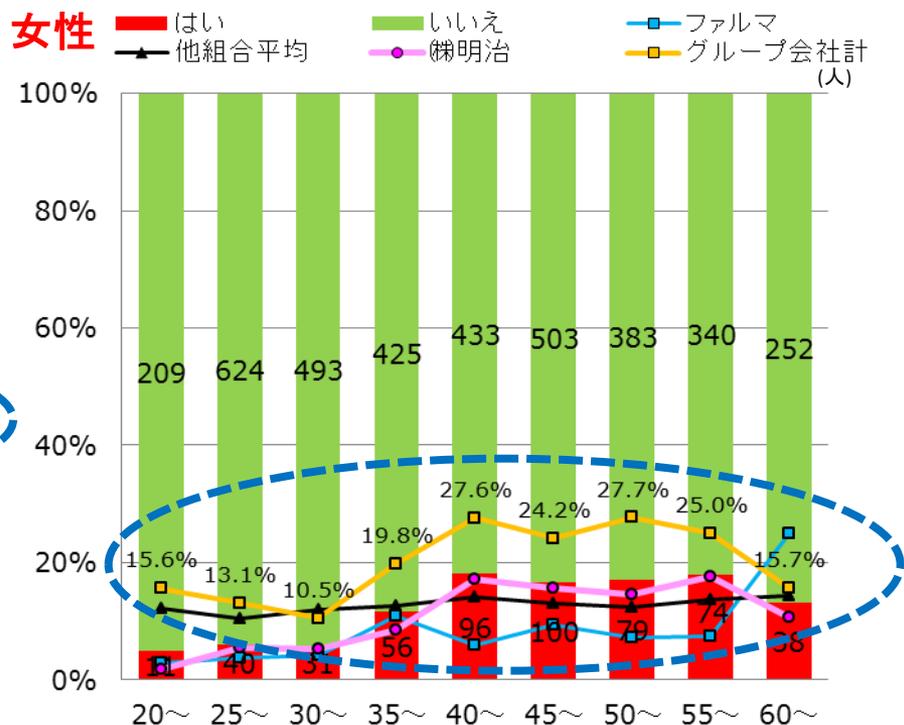
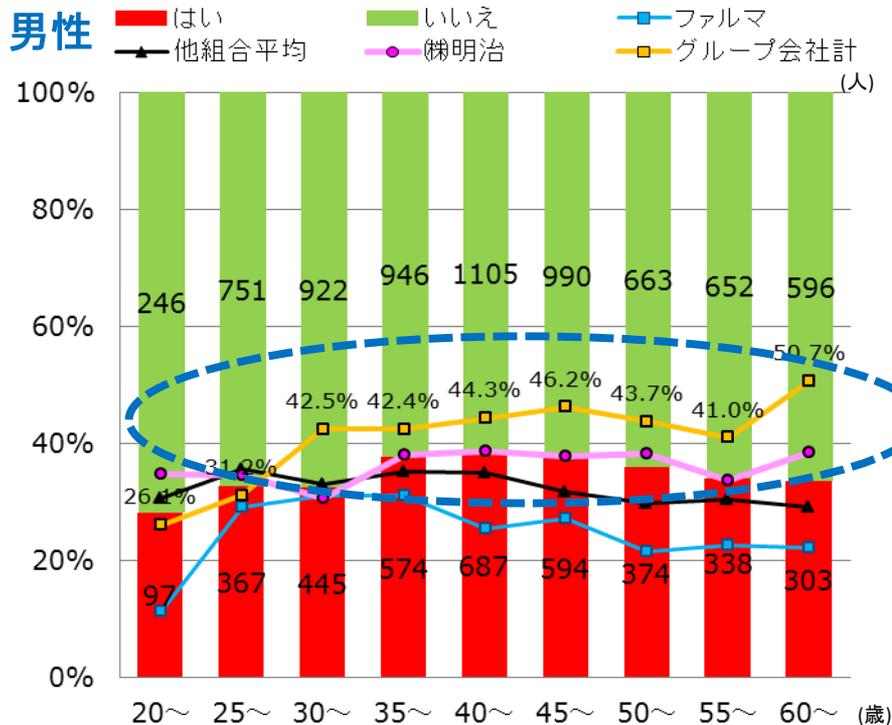
# ⑦喫煙における課題

男女とも、ファルマを除き、各年代で他組合平均との比較において喫煙率が高い。

【平成28年度】被保険者・本人

喫煙「現在、たばこを習慣的に吸っている」

年齢別喫煙状況

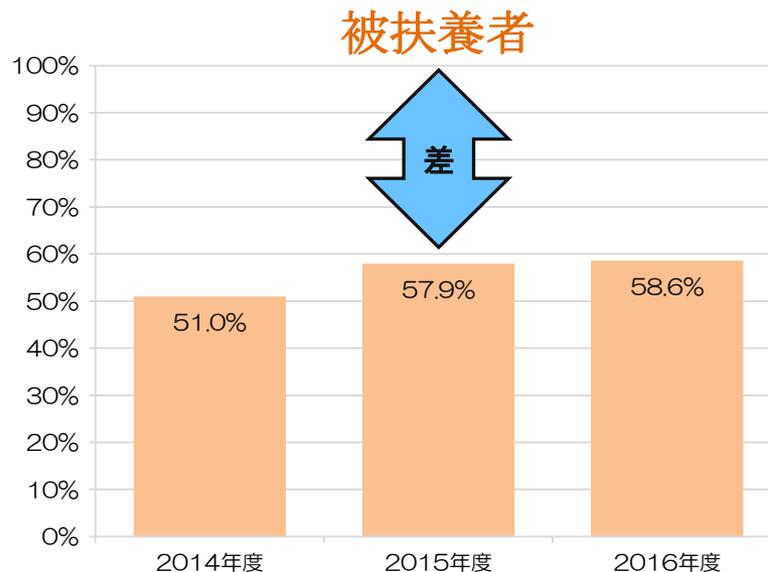


※他組合 約25組合 加入者数約150万人データとの比較

## ⑧被扶養者の健診受診率における課題

被保険者に対して、被扶養者の健診受診率が低い。

【特定健診受診率 経年比較】 40歳以上



【対象者数/受診者数の内訳 経年比較】

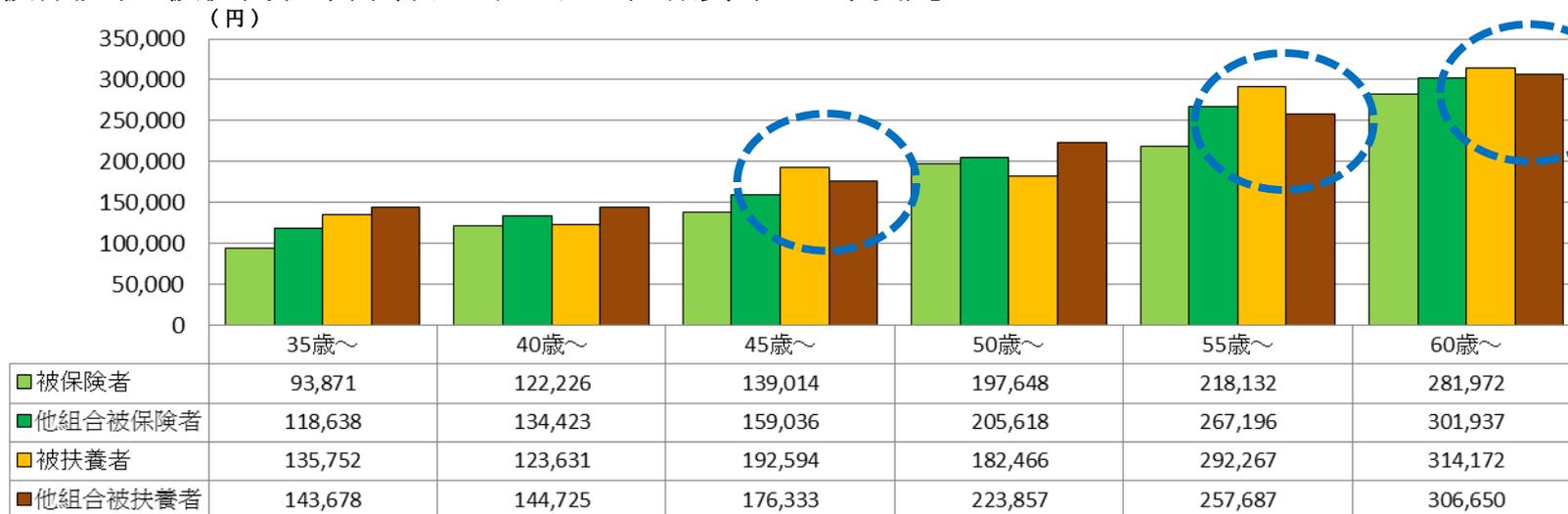
年度	対象者数 (人)				受診者数 (人)				受診率			
	2014	2015	2016	前年度比	2014	2015	2016	前年度比	2014	2015	2016	前年度比
被保険者	8,086	8,202	8,412	102.6%	7,896	7,990	8,195	102.6%	97.7%	97.4%	97.4%	0.0%
被扶養者	3,340	3,355	3,322	99.0%	1,703	1,941	1,946	100.3%	51.0%	57.9%	58.6%	0.7%
合計	11,426	11,557	11,734	101.5%	9,599	9,931	10,141	102.1%	84.0%	85.9%	86.4%	0.5%

## ⑧被扶養者の健診受診率における課題

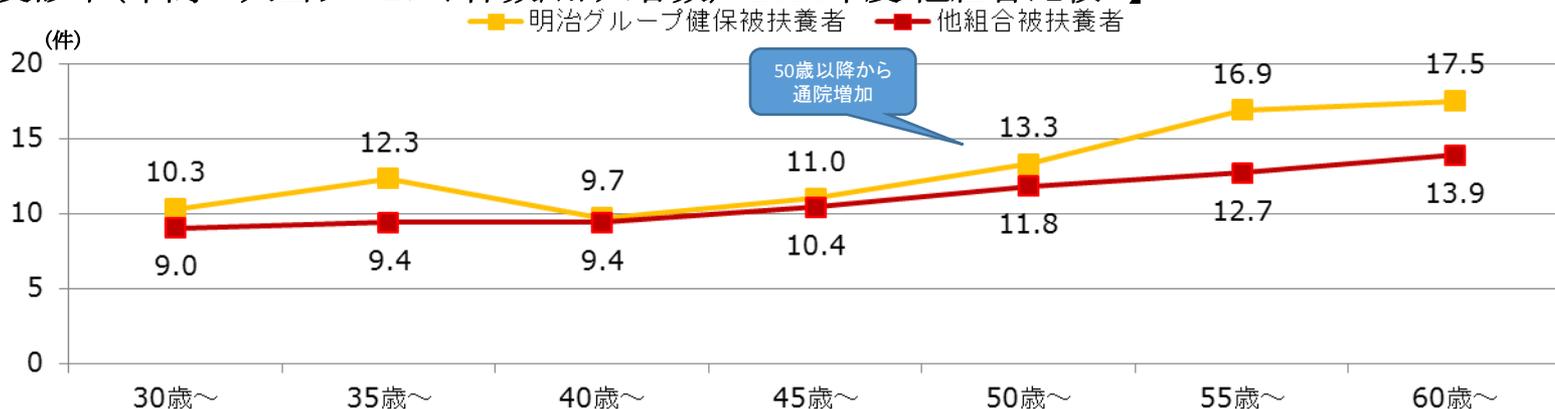
被扶養者の45～49歳代と55歳以上で、他組合平均よりも一人当たり医療費が高く、50歳以降で医療機関への受診率が高い。



【被保険者・被扶養者年齢層別一人当たり医療費(2016年度)】



【年齢別受診率(年間一人当りレセプト件数/加入者数) 2016年度 他組合比較】



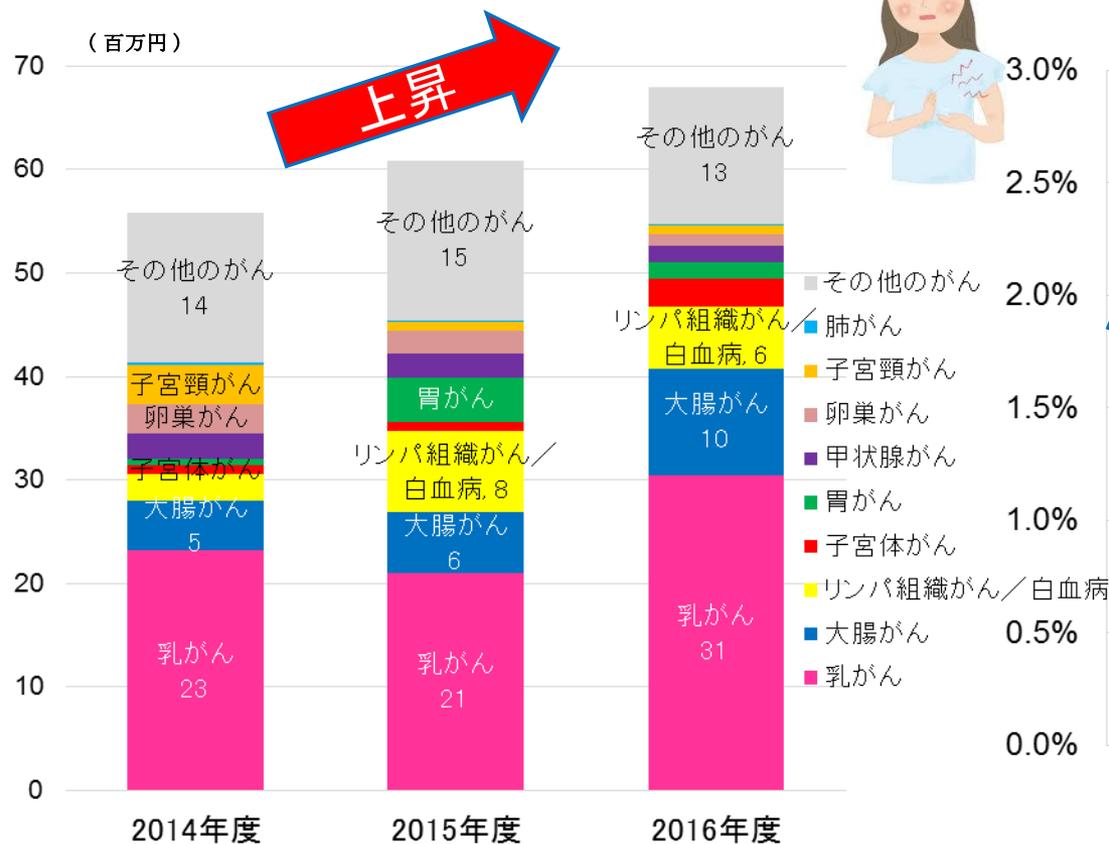
※他組合 約25組合 加入者数約150万人データとの比較

# ⑨がんにおける課題

- ・被保険者女性において、がん医療費が増加。
- ・乳がんや胃がんの受診率が増加。

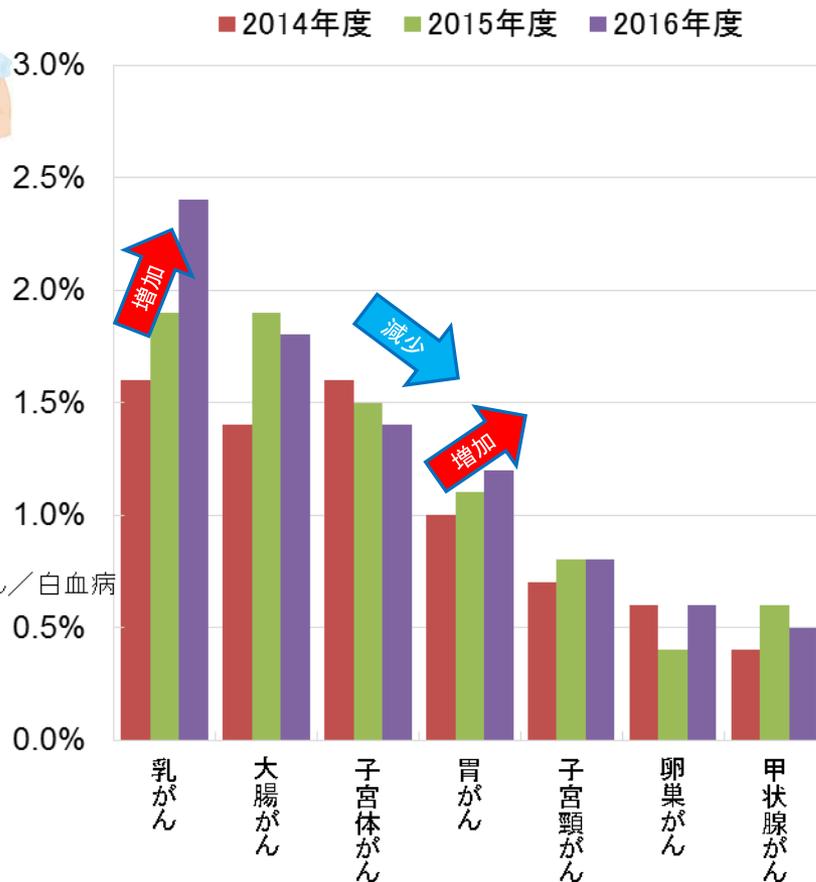
【がんの医療費推移】

被保険者 女性



【がんの受診割合推移（年間受診者/加入者）】

被保険者 女性

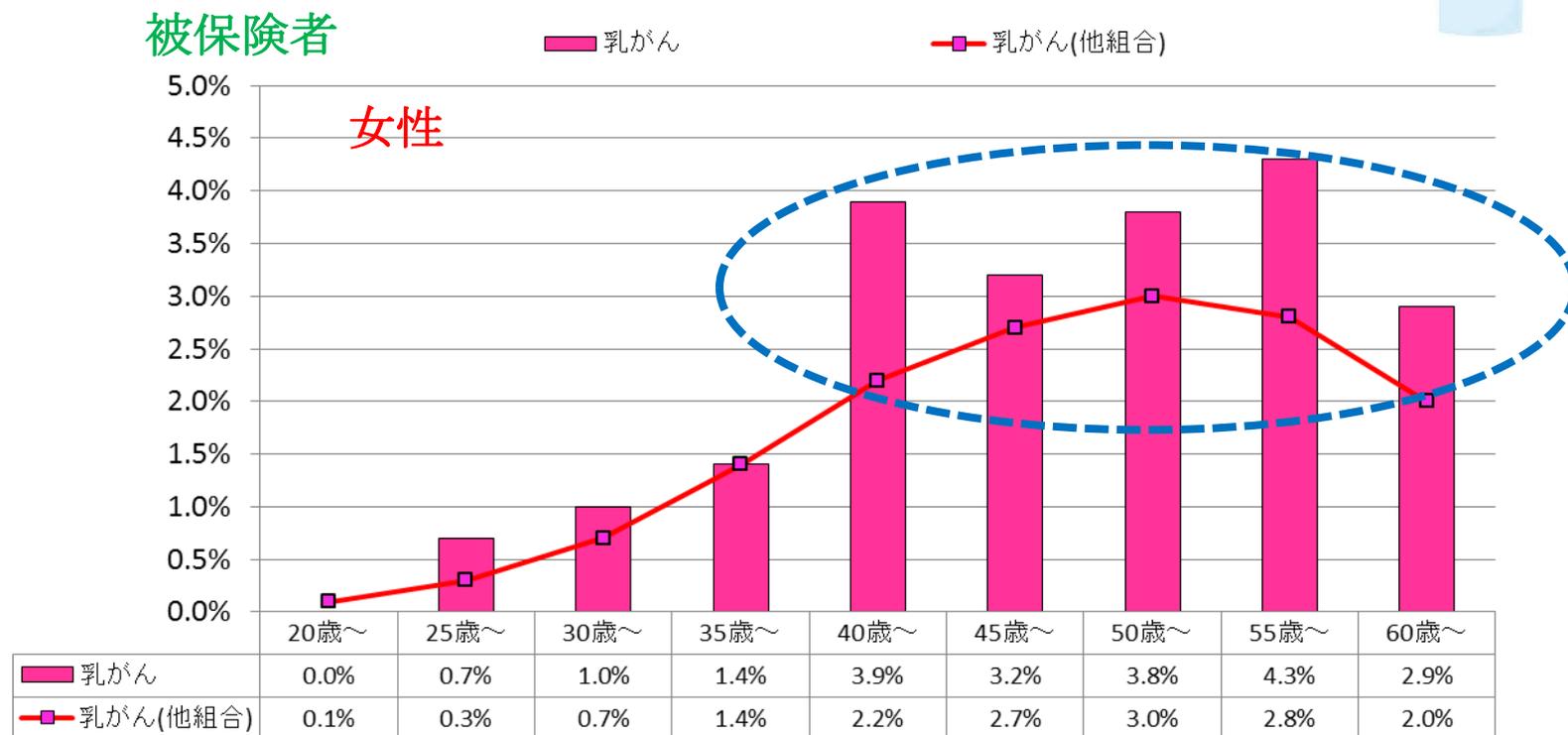


## ⑨がんにおける課題

他組合平均との比較において、被保険者女性の乳がんの受診割合が高い。



乳がんにおける年齢別受診者割合（2016年度） 被保険者・本人



※他組合 約25組合 加入者数約150万人データとの比較

## STEP 2 健康課題の抽出

No.	STEP1 対応項目	基本分析による現状把握から見える主な健康課題		対策の方向性	優先すべき 課題
1	ア, イ, ウ, エ	①平均年齢の上昇における課題 ・現在の加入者構成では、40～44歳被保険者の人数が突出しています。また、40歳以上が57%を超えていて、平均年齢が上昇し続けていることから、今後、医療費がさらに増加していくことが考えられる。	➔	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別保健指導の充実</li> <li>重症化予防対策の推進</li> <li>60歳以上再雇用者へのフォロー実施。</li> <li>退職者に対する健康セミナーの実施。</li> <li>がん検診受診率の向上。</li> </ul>	
2	オ, カ, キ, ク	②脂質異常症における課題 ・改善傾向ではあるが、他組合平均と比較して40～50歳代男性の腹囲及びBMIにおける基準値以上の割合が高くなっている。	➔	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定保健指導の実施（プログラムの工夫）</li> <li>飽和脂肪酸の取りすぎ予防のための連行教育の実施</li> <li>適正飲酒についての個別指導・集団指導</li> <li>食堂メニューの改善</li> </ul>	✓
3	コ, サ, シ	③高血圧における課題 ・ファルマを除く（株）明治、グループ会社の被保険者男性において、各年代で他組合平均と比較して、収縮期血圧の基準値（130）以上の割合が高くなっている。	➔	<ul style="list-style-type: none"> <li>食堂メニューの改善</li> <li>職場での自販機（カップめん等）の設置の可否の検討。</li> <li>食堂での朝食提供</li> <li>血圧計の設置</li> </ul>	✓
4	ケ, シ, ス	④糖尿病における課題 ・グループ会社の被保険者において、各年代で他組合平均と比較して、HbA1cの基準値（6.5）以上の割合が高くなっている。	➔	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定保健指導の実施（プログラムの工夫）</li> <li>飽和脂肪酸の取りすぎ予防のための連行教育の実施</li> <li>適正飲酒についての個別指導・集団指導</li> <li>食堂メニューの改善</li> </ul>	✓
5	セ	⑤重症化防止の課題 ・健診結果において要治療域の緊急性が高い方で多くの未治療者がいる。	➔	<ul style="list-style-type: none"> <li>重症化予防の実施における事業所との協力体制の構築</li> </ul>	
6	ソ	⑥ジェネリック医薬品への対応 ・厚労省統計と比較するとジェネリック医薬品の使用割合が下回っている。	➔	<ul style="list-style-type: none"> <li>広報誌にて情報提供</li> <li>ジェネリック利用シールの配布</li> <li>差額通知の送付（年3回）</li> </ul>	
7	タ	⑦喫煙における課題 ・男女ともにファルマを除く（株）明治、グループ会社において、各年代で他組合平均と比較して喫煙率が非常に高くなっている。	➔	<ul style="list-style-type: none"> <li>禁煙セミナーの開催</li> <li>禁煙サポートプログラムの検討</li> <li>禁煙ポスターの作成</li> </ul>	✓
8	チ, ツ	⑧被扶養者の健診受診率における課題 ・被保険者に対して、被扶養者の健診受診率が低くなっている。 ・被扶養者の45～49歳代と55歳以上で、他組合平均よりも一人当たり医療費が高く、50歳以降で医療機関への受診率が高くなっている。	➔	<ul style="list-style-type: none"> <li>パートナー健診の推進</li> <li>未受診者への受診勧奨はがきの送付（2回）</li> <li>郵送検診の検討</li> </ul>	✓
9	テ, ト	⑨がんにおける課題 ・被保険者女性において、がん医療費が増加しています。また、乳がんや胃がんで受診率が増加している。 ・他組合平均と比較し、被保険者女性の乳がんにおける受診割合が高くなっている。	➔	<ul style="list-style-type: none"> <li>女子検診の集団検診との同時健診の推進</li> <li>女子検診受診キャンペーンの実施</li> <li>郵送検診の検討</li> </ul>	

## 基本情報

No.	特徴		対策検討時に留意すべき点
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所が全国に点在している。事業所の規模は、大規模なものから数名 程度の規模のところまで混在している。</li> <li>・各事業所において、被保険者に対する医療職のかかわり方が統一出来て いない。</li> <li>・健康保険組合には2名の医療職が在籍している。</li> </ul>	➔	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状、各事業会社および事業所との健康保険組合の連携に温度差が、あるため、今後ハイリスク対象者管理のための優先順位をつけて、連携体制基盤を構築していく。</li> </ul>

## 保健事業の実施状況

No.	特徴		対策検討時に留意すべき点
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被扶養者の特定健診受診率向上への取り組みが進まない。</li> <li>・被扶養者の特定保健指導への取り組みができていない。</li> <li>・若年層への健康指導等の取り組みが不足している。</li> <li>・電話相談が有効活用されていない。</li> <li>・女子検診の受診率が低い</li> </ul>	➔	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被扶養者の未受診者の状況把握が必要。</li> <li>・被扶養者の特定保健指導の実施においてはコストを検討する必要。</li> <li>・若年層への健康指導の取組にあたり、マンパワーの検討が必要</li> <li>・電話相談の他委託業者への委託の検討。</li> <li>・集団検診との同時受診の可否。</li> </ul>

## STEP 3 保健事業の実施計画

### 事業全体の目的

- 1、平均年齢の上昇による医療費を抑制する
- 2、要医療で未治療者を早期受診に結び付けることにより、重症化により医療費増を抑制する。
- 3、ジェネリック医薬品への積極的な置き換えをサポートすることにより、医療費をスピーディーに削減する。
- 4、被扶養者の特定健診の受診率をアップを図ることにより、早期の予防・早期の治療を行い医療費を削減する。
- 5、若年層に対し30歳からの血液検査をルーチンで実施することにより、生活習慣病予防につなげる。
- 6、がん検診の受診率のアップを図ることにより、早期発見・早期治療を行い医療費を削減する。

### 事業全体の目標

- 1、40歳以上の被保険者の医療費の10%削減
- 2、高額医療費の大幅削減
- 3、ジェネリック医薬品置き換え率80%を目指す
- 4、被扶養者の受診率を10%アップ
- 5、若年層での生活習慣病医療費の10%削減
- 6、女子検診の受診率10%アップ

### 事業の一覧

#### 職場環境の整備

保健指導宣伝	健康白書
--------	------

#### 加入者への意識づけ

保健指導宣伝	健康啓発セミナー
--------	----------

#### 個別の事業

特定健康診査事業	特定健診(被保険者)
特定健康診査事業	特定健診(被扶養者)
特定保健指導事業	特定保健指導
保健指導宣伝	ジェネリック差額通知
疾病予防	人間ドック
疾病予防	女子検診(単独婦人科検診)
疾病予防	主婦健診
疾病予防	家族健診
疾病予防	生活習慣病健診
疾病予防	歯科検診
疾病予防	インフルエンザ予防接種費用補助
疾病予防	健康増進モデル事業
疾病予防	健康相談
疾病予防	重症化予防対策
疾病予防	電話健康相談
疾病予防	禁煙キャンペーン
体育奨励	ウォーキング
体育奨励	スポーツ助成奨励費
体育奨励	スポーツクラブ法人契約
その他	契約保養所
予算措置なし	家庭常備薬の斡旋

※事業は予算科目順に並び替えて表示されています。

予算科目	注1)事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2)実施主体	注3)プロセス分類	実施方法	注4)ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連	
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画							
													平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度			令和5年度
アウトプット指標												アウトカム指標								
職場環境の整備																				
保健指導宣伝	1	新規	健康白書	全て	男女	18～74	加入者全員	3	イ,ウ,エ,キ,ク,シ	・事業会社および事業所別の「健康レポート」を作成。 ・三年に一度の「健康白書」の作成	ア,イ,ウ	・事業所および事業会社での会議体を活用した情報の共有化	800	800	1,600	800	800	1,600	・事業会社・事業所の健康ポジションに見える化。 ・健康課題の共有化 ・取組課題の明確化	①平均年齢の上昇における課題 ・現在の加入者構成では、40～44歳被保険者の人数が突出しています。また、40歳以上が57%を超えていて、平均年齢が上昇し続けていることから、今後、医療費がさらに増加していくことが考えられる。
													健康レポートを作成し、事業主トップとの情報の共有回数(【実績値】25件 【目標値】平成30年度：25件 令和元年度：25件 令和2年度：25件 令和3年度：25件 令和4年度：25件 令和5年度：25件)事業所トップ及び事業主に対する説明。(事業所内での縦・横展開)「健康経営推進委員会」にて情報提供							
加入者への意識づけ																				
保健指導宣伝	2	既存	健康啓発セミナー	全て	男女	19～74	被保険者	2	ケ,シ	事業所ごとの申請による開催 開催費の一部補助 開催後にアンケートによる満足度調査実施	ア,コ	コナミ・セントラルに実施委託(講師派遣等)	1,100	1,100	1,620	1,620	2,160	2,160	・健康意識の向上および行動変容	①平均年齢の上昇における課題 ・現在の加入者構成では、40～44歳被保険者の人数が突出しています。また、40歳以上が57%を超えていて、平均年齢が上昇し続けていることから、今後、医療費がさらに増加していくことが考えられる。
													セミナー開催事業所(【実績値】10件 【目標値】平成30年度：20件 令和元年度：20件 令和2年度：30件 令和3年度：30件 令和4年度：40件 令和5年度：40件)講師派遣費用他54,000円(含む消費税)を上限に、一回の開催に対し補助							
個別の事業																				
特定健康診査事業	3	既存	特定健診(被保険者)	全て	男女	40～74	被保険者	1	イ,ウ,エ,オ,キ,ク,シ	事業所における集団検診または、KENPOSを活用した個人としての人間ドック等の健診	ア,イ,ウ,コ,ス	事業会社との共同実施 イーウェル業務委託によるKENPOS利用	18,886	19,000	19,000	20,000	20,000	20,000	・疾病の早期発見・早期治療 ・被保険者の除外者以外の全員受診。	①平均年齢の上昇における課題 ・現在の加入者構成では、40～44歳被保険者の人数が突出しています。また、40歳以上が57%を超えていて、平均年齢が上昇し続けていることから、今後、医療費がさらに増加していくことが考えられる。
													早期受診の呼びかけ(【実績値】 - 【目標値】平成30年度：2回 令和元年度：2回 令和2年度：2回 令和3年度：2回 令和4年度：2回 令和5年度：2回)早期受診の促進(事業会社と連携)：1回 二次検査受診状況の共有：1回							
3	既存	特定健診(被扶養者)	全て	男女	40～74	被扶養者	1	イ,ウ,エ,キ,ク,シ	・KENPOSを活用した個人としての健診 ・未受診者への受診勧奨(6月と8月の2回実施) ・未受診理由の調査を実施 ・パート先の健診結果の収集 ・郵送検診 ・指定外受診の検討	ア,サ,ス	㈱イーウェルとの連携し、KENPOSを利用	2,000	2,000	2,000	2,100	2,100	2,100	・被扶養者の受診率アップによる早期発見 ・早期治療 ・45歳以上の被扶養者の医療費削減	①平均年齢の上昇における課題 ・現在の加入者構成では、40～44歳被保険者の人数が突出しています。また、40歳以上が57%を超えていて、平均年齢が上昇し続けていることから、今後、医療費がさらに増加していくことが考えられる。 ②被扶養者の健診受診率における課題 ・被保険者に対して、被扶養者の健診受診率が低くなっている。 ・被扶養者の45～49歳代と55歳以上で、他組合平均よりも一人当たり医療費が高く、50歳以降で医療機関への受診率が高くなっている。	
												受診勧奨(【実績値】1回 【目標値】平成30年度：2回 令和元年度：2回 令和2年度：2回 令和3年度：2回 令和4年度：2回 令和5年度：2回)健診実施の促進(実施率60%以上) ・未受診者へのはがきによる受診勧奨(6月と8月の2回実施) ・未受診理由の調査を実施 ・平成31年度より郵送検診を開始								
													22,515	23,000	23,100	23,200	23,300	23,400		

予算科目	注1) 事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2) 実施主体	注3) プロセス分類	実施方法	注4) ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連	
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画							
													平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度			令和5年度
アウトプット指標												アウトカム指標								
特定保健指導事業	4	既存	特定保健指導	一部の事業所	男女	40～74	被保険者、被扶養者	1	イ,エ,オ,キ,ク,ケ,シ	事業主との調整を図り、事業所の実情にあった実施方法を提案する（ICT活用等） モデル事業を推進（被扶養者に関しては健診機関での指導面談を検討）	ア,コ,サ	外部業者を活用した実施（ベネフィットワン・ヘルスケア社、東京予防） 健保医療職を一部事業所で実施 事業会社の医療職活用も検討	ローテーションにて実施事業所を決定し、実施（ICT面談活用） モデル事業を推進	ローテーションにて実施事業所を決定し、実施（ICT面談活用） モデル事業を推進	ローテーションにて実施事業所を決定し、実施（ICT面談活用） モデル事業を推進 *被扶養者対象の特定保健指導の開始に向けた準備	ローテーションにて実施事業所を決定し、実施（ICT面談活用） モデル事業を推進 *被扶養者対象の特定保健指導を開始（健診機関にて実施）	ローテーションにて実施事業所を決定し、実施（ICT面談活用） モデル事業を推進 *被扶養者対象の特定保健指導を実施	ローテーションにて実施事業所を決定し、実施（ICT面談活用） モデル事業を推進 *被扶養者対象の特定保健指導を実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>②脂質異常症における課題 <ul style="list-style-type: none"> <li>改善傾向ではあるが、他組合平均と比較して40～50歳代男性の腹囲及びBMIにおける基準値以上の割合が高くなっている。</li> </ul> </li> <li>③高血圧における課題 <ul style="list-style-type: none"> <li>ファルマを除く(株)明治、グループ会社の被保険者男性において、各年代で他組合平均と比較して、収縮期血圧の基準値（130）以上の割合が高くなっている。</li> </ul> </li> <li>④糖尿病における課題 <ul style="list-style-type: none"> <li>グループ会社の被保険者において、各年代で他組合平均と比較して、HbA1cの基準値（6.5）以上の割合が高くなっている。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定保健指導の完結者のアップ</li> <li>生活習慣の改善指導および重症化予防</li> </ul>
	実施率の向上(【実績値】13.1% 【目標値】平成30年度：25% 令和元年度：35% 令和2年度：40% 令和3年度：45% 令和4年度：50% 令和5年度：55%) 実施の促進 就業時間内にて実施協力（事業会社）												実施者の健康改善(【実績値】 - 【目標値】平成30年度：2% 令和元年度：2% 令和2年度：2% 令和3年度：3% 令和4年度：3% 令和5年度：3%)実施者の健康改善（体重・腹囲等の改善率）							
	-												特定保健指導対象者の減少(【実績値】 - 【目標値】平成30年度：1% 令和元年度：1% 令和2年度：1% 令和3年度：1% 令和4年度：1% 令和5年度：1%)特定保健指導対象者から情報提供・服薬対象への移行%							
保健指導宣伝	7	既存	ジェネリック差額通知	全て	男女	18～74	加入者全員	1	エ,キ,ク,シ	・年間3回の差額通知を個人宛て送付 ・後発医薬新希望カード ・シールを機関誌に同封し配布	ア,サ,ス	・外部委託業者（大和総研B.I）にデータ抽出委託	・年間3回の差額通知の個人宛て送付 ・ジェネリックリ利用促進シールの配布	・年間3回の差額通知の個人宛て送付 ・ジェネリックリ利用促進シールの配布	・年間3回の差額通知の個人宛て送付 ・ジェネリックリ利用促進シールの配布	・年間3回の差額通知の個人宛て送付 ・ジェネリックリ利用促進シールの配布	・年間3回の差額通知の個人宛て送付 ・ジェネリックリ利用促進シールの配布	・年間3回の差額通知の個人宛て送付 ・ジェネリックリ利用促進シールの配布	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑥ジェネリック医薬品への対応</li> <li>厚労省統計と比較するとジェネリック医薬品の使用割合が下回っている。</li> </ul>	・医療費の削減（年間1,000万円）
	差額通知送付者数(【実績値】2,274人 【目標値】平成30年度：2,000人 令和元年度：2,000人 令和2年度：2,000人 令和3年度：1,500人 令和4年度：1,500人 令和5年度：1,500人)年3回自己負担額が500円以上削減される加入者に送付 後発医薬新希望カード・シールを機関誌に同封し配布												ジェネリック医薬品の切換え率(【実績値】73.1% 【目標値】平成30年度：74% 令和元年度：75% 令和2年度：76% 令和3年度：77% 令和4年度：78% 令和5年度：80%)ジェネリック医薬品の切換え率70%							
	-																			
疾病予防	3	既存	人間ドック	全て	男女	35～74	被保険者、被扶養者、任意継続者	1	イ,ウ,エ,ク,ケ,シ	各自がイーウェル指定の健診機関に申込み、KENPOSにて受診登録を実施。	ア,イ,ス	イーウェル業務委託による受診	・KENPOSを活用した受診	・KENPOSを活用した受診	・KENPOSを活用した受診	・KENPOSを活用した受診	・KENPOSを活用した受診	・KENPOSを活用した受診	<ul style="list-style-type: none"> <li>①平均年齢の上昇における課題 <ul style="list-style-type: none"> <li>現在の加入者構成では、40～44歳被保険者の人数が突出しています。また、40歳以上が57%を超えていて、平均年齢が上昇し続けていることから、今後、医療費がさらに増加していくことが考えられる。</li> </ul> </li> <li>②被扶養者の健診受診率における課題 <ul style="list-style-type: none"> <li>被保険者に対して、被扶養者の健診受診率が低くなっている。</li> <li>被扶養者の45～49歳代と55歳以上で、他組合平均よりも一人当たり医療費が高く、50歳以降で医療機関への受診率が高くなっている。</li> </ul> </li> </ul>	・詳細な健診実施による早期発見・早期治療
	早期受診勧奨(【実績値】1回 【目標値】平成30年度：2回 令和元年度：2回 令和2年度：2回 令和3年度：2回 令和4年度：2回 令和5年度：2回)未受診者へのはがきによる受診勧奨（6月と8月の2回実施）												受診人数(【実績値】4,690人 【目標値】平成30年度：4,600人 令和元年度：4,600人 令和2年度：4,700人 令和3年度：4,800人 令和4年度：4,900人 令和5年度：5,000人)費用対効果が高く、医療費抑制に効果的な検査項目への見直しを図る							
	-																			
3	既存	女子検診(単独婦人科検診)	全て	女性	18～74	被保険者	1	イ,ウ,エ,ク,シ	・法定健診との同時受診を推進 ・検診バス手配代および派遣医師代を健保が負担を実施	ア,キ,コ,サ,ス	日本予防医学協会・イーウェルとの連携	法定健診との同時受診を推進	法定健診との同時受診を推進 郵送健診を検討	法定健診との同時受診を推進 郵送健診を実施	法定健診との同時受診を推進 郵送健診を実施	法定健診との同時受診を推進 郵送健診を実施	法定健診との同時受診を推進 郵送健診を実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑨がんにおける課題 <ul style="list-style-type: none"> <li>被保険者女性において、がん医療費が増加しています。また、乳がんや胃がんが受診率が増加している。</li> <li>他組合平均と比較し、被保険者女性の乳がんにおける受診割合が高くなっている。</li> </ul> </li> </ul>	・検診の受診率のアップ ・乳がん、子宮がんの早期発見・早期治療	
	受診率(【実績値】49% 【目標値】平成30年度：55% 令和元年度：60% 令和2年度：65% 令和3年度：70% 令和4年度：75% 令和5年度：80%)・事業主への働きかけ ・法定健診との同時受診を推進 ・検診バス手配代および派遣医師代を健保が負担を実施												早期発見・早期治療による一人当たり医療費の減少(【実績値】 - 【目標値】平成30年度：5% 令和元年度：5% 令和2年度：5% 令和3年度：5% 令和4年度：5% 令和5年度：5%)早期発見・早期治療による乳がん・子宮がんの医療費の削減（毎年5%削減目標）							
	-																			
-												117,000	118,000	118,000	119,000	119,000	120,000			

予算科目	注1) 事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2) 実施主体	注3) プロセス分類	実施方法	注4) ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画						
													平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度		
アウトプット指標												アウトカム指標							
3	既存	主婦健診	全て	女性	18～74	被扶養者	1	イ,ウ,エ,キ,ケ,シ	・被扶養者本人宛に案内リストを送付し、本人が医療機関に受診申込み後受診。 ・指定外受診の検討	ア,サ,ス	・イーウェル業務委託によるKENPOSの利用	パートナー健診の推進 未受診者への受診勧奨	パートナー健診の推進 未受診者への受診勧奨	パートナー健診の推進 未受診者への受診勧奨	パートナー健診の推進 未受診者への受診勧奨	パートナー健診の推進 未受診者への受診勧奨	パートナー健診の推進 未受診者への受診勧奨	・受診率のアップ ・疾病の早期発見・早期治療	①平均年齢の上昇における課題 ・現在の加入者構成では、40～44歳被保険者の人数が突出しています。また、40歳以上が57%を超えていて、平均年齢が上昇し続けていることから、今後、医療費がさらに増加していくことが考えられる。  ⑧被扶養者の健診受診率における課題 ・被保険者に対して、被扶養者の健診受診率が低くなっている。 ・被扶養者の45～49歳代と55歳以上で、他組合平均よりも一人当たり医療費が高く、50歳以降で医療機関への受診率が高くなっている。
早期受診勧奨(【実績値】1回 【目標値】平成30年度：2回 令和元年度：2回 令和2年度：2回 令和3年度：2回 令和4年度：2回 令和5年度：2回)・未受診者への受診勧奨(6月と8月の2回実施)												受診者数のアップ(【実績値】3,358人 【目標値】平成30年度：3,500人 令和元年度：3,600人 令和2年度：3,700人 令和3年度：3,800人 令和4年度：3,900人 令和5年度：4,000人)被扶養者の一人当たり医療費を削減(毎年2%削減目標)							
3	既存	家族健診	全て	男女	35～74	被扶養者	1	イ,ウ,エ,キ,シ	本人宛に案内リストを送付し、本人が医療機関に受診申込み後受診。	ア,サ,ス	・イーウェル業務委託によるKENPOSを活用	KENPOSにて実施	KENPOSにて実施	KENPOSにて実施	KENPOSにて実施	KENPOSにて実施	KENPOSにて実施	・受診率のアップ ・疾病の早期発見・早期治療	①平均年齢の上昇における課題 ・現在の加入者構成では、40～44歳被保険者の人数が突出しています。また、40歳以上が57%を超えていて、平均年齢が上昇し続けていることから、今後、医療費がさらに増加していくことが考えられる。  ⑧被扶養者の健診受診率における課題 ・被保険者に対して、被扶養者の健診受診率が低くなっている。 ・被扶養者の45～49歳代と55歳以上で、他組合平均よりも一人当たり医療費が高く、50歳以降で医療機関への受診率が高くなっている。
早期受診勧奨(【実績値】1人 【目標値】平成30年度：2人 令和元年度：2人 令和2年度：2人 令和3年度：2人 令和4年度：2人 令和5年度：2人)未受診者に対する受診勧奨通知の発信												受診者数の向上(【実績値】29人 【目標値】平成30年度：40人 令和元年度：45人 令和2年度：50人 令和3年度：55人 令和4年度：60人 令和5年度：65人)被扶養者の一人当たり医療費を削減(毎年2%削減目標)							
3	既存	生活習慣病健診	全て	男女	18～74	任意継続者	1	イ,ウ,エ,キ,ケ	任意継続者あてに案内書送付後、本人が医療機関に受診申込み後受診。	サ,ス	・イーウェル業務委託によるKENPOSの活用	KENPOSにて実施	KENPOSにて実施	KENPOSにて実施	KENPOSにて実施	KENPOSにて実施	KENPOSにて実施	・受診率のアップ ・疾病の早期発見・早期治療	①平均年齢の上昇における課題 ・現在の加入者構成では、40～44歳被保険者の人数が突出しています。また、40歳以上が57%を超えていて、平均年齢が上昇し続けていることから、今後、医療費がさらに増加していくことが考えられる。
受診者数の向上(【実績値】51人 【目標値】平成30年度：70人 令和元年度：75人 令和2年度：80人 令和3年度：85人 令和4年度：90人 令和5年度：95人)未受診者に対する受診勧奨通知の発信												任継者の医療費の削減(【実績値】 - 【目標値】平成30年度：2% 令和元年度：2% 令和2年度：2% 令和3年度：2% 令和4年度：2% 令和5年度：2%)任継者の一人当たり医療費を削減(毎年2%削減目標)							
3	既存	歯科検診	全て	男女	18～74	被保険者	3	ウ,ス	・事業所毎 隔年実施 ・今後、事業所と連携し対象者を抽出し受診勧奨を実施。 ・定期検診との同時開催を検討	ア,コ,ス	外部委託：歯科衛生協会またはライオン(一本化を検討) ネットワーク健診の実施	事業所毎 隔年実施	事業所毎 隔年実施(モデル事業所にて定期検診との同時開催の実施)	事業所毎 隔年実施(定期検診との同時開催の実施)	事業所毎 隔年実施(定期検診との同時開催の実施)	事業所毎 隔年実施(定期検診との同時開催の実施)	事業所毎 隔年実施(定期検診との同時開催の実施)	・検診受診率のアップ ・疾病の早期発見・早期治療	①平均年齢の上昇における課題 ・現在の加入者構成では、40～44歳被保険者の人数が突出しています。また、40歳以上が57%を超えていて、平均年齢が上昇し続けていることから、今後、医療費がさらに増加していくことが考えられる。
健診人数(【実績値】618人 【目標値】平成30年度：5,000人 令和元年度：5,000人 令和2年度：5,000人 令和3年度：5,000人 令和4年度：5,000人 令和5年度：5,000人)・事業所毎 隔年実施 ・今後、事業所と連携し対象者を抽出し受診勧奨を実施。 ・(定期検診との同時開催の実施)												歯科医療費の削減(【実績値】 - 【目標値】平成30年度：2% 令和元年度：2% 令和2年度：2% 令和3年度：2% 令和4年度：2% 令和5年度：2%)う歯・歯周病者の減少(医療費を毎年2%削減目標)(該当率が減少傾向に転じる)							
3	既存	インフルエンザ予防接種費用補助	全て	男女	0～74	加入者全員	1	ケ,ス	集団接種または個人接種に対し一人1,000円補助	ア,コ,ス	事業会社との連携(集団接種含む)	集団接種または個人接種に対し費用補助	集団接種または個人接種に対し費用補助	集団接種または個人接種に対し費用補助	集団接種または個人接種に対し費用補助	集団接種または個人接種に対し費用補助	集団接種または個人接種に対し費用補助	・接種者数の増加 ・重症化予防	①平均年齢の上昇における課題 ・現在の加入者構成では、40～44歳被保険者の人数が突出しています。また、40歳以上が57%を超えていて、平均年齢が上昇し続けていることから、今後、医療費がさらに増加していくことが考えられる。

予 算 科 目	注1) 事業 分類	新 規 既 存	事業名	対象者				注2) 実施 主体	注3) プロセス 分類	実施方法	注4) ストラ クチャー 分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連
				対象 事業所	性別	年 齢	対象者						実施計画						
													平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度		
アウトプット指標												アウトカム指標							
インフルエンザ予防接種者数(【実績値】11,290人 【目標値】平成30年度：12,000人 令和元年度：12,000人 令和2年度：13,000人 令和3年度：13,000人 令和4年度：14,000人 令和5年度：15,000人)インフルエンザ予防接種率50% 約15,000名												数値化が困難なため (アウトカムは設定されていません)							
1,5,8	新規	健康増進モデル事業	一部の事業所	男女	18～74	被保険者	3	キ,ケ	事業所より健康増進に向けてモデル事業となるアイデアを募集し、実施内容を評価した上で費用助成を行う。	ア,コ	モデル事業を参考に全事業所に展開も予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な事業内容を検討</li> <li>一事業所をトライアル事業所として実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康増進に向けて事業アイデアを募集し内容を検討後費用助成。</li> <li>年度毎に結果検証を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康増進に向けて事業アイデアを募集し内容を検討後費用助成。</li> <li>年度毎に結果検証を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康増進に向けて事業アイデアを募集し内容を検討後費用助成。</li> <li>年度毎に結果検証を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康増進に向けて事業アイデアを募集し内容を検討後費用助成。</li> <li>年度毎に結果検証を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康増進に向けて事業アイデアを募集し内容を検討後費用助成。</li> <li>年度毎に結果検証を実施</li> </ul>	事業所単位の健康課題を共有化し、課題解決に取り組む事により、事業所主体の行動変容を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①平均年齢の上昇における課題</li> <li>・現在の加入者構成では、40～44歳被保険者の人数が突出しています。また、40歳以上が57%を超えていて、平均年齢が上昇し続けていることから、今後、医療費がさらに増加していくことが考えられる。</li> </ul>
モデル事業提案事業所数(【実績値】 - 【目標値】平成30年度：1件 令和元年度：4件 令和2年度：10件 令和3年度：14件 令和4年度：16件 令和5年度：20件)事業所より申請があった健康増進に向けてのモデル事業を健保にて内容を吟味し、費用補助を行う。 費用補助は一事業所年間10万円を目安とする。												健康増進事業所数(【実績値】 - 【目標値】平成30年度：0% 令和元年度：50% 令和2年度：50% 令和3年度：50% 令和4年度：50% 令和5年度：50%)事業所毎の健康状況の改善指数を次年度評価。							
6	既存	健康相談	全て	男女	18～74	被保険者	3	イ,エ,オ,ク,ケ,シ	重要度の高い事業所を優先し、年間スケジュールに沿った事業所訪問による面談。	ア,イ,ウ,コ	事業所業務課との連携(勤務時間内での健康相談)	重要度の高い事業所を優先し、年間スケジュールに沿った事業所訪問による面談	重要度の高い事業所を優先し、年間スケジュールに沿った事業所訪問による面談	重要度の高い事業所を優先し、年間スケジュールに沿った事業所訪問による面談	重要度の高い事業所を優先し、年間スケジュールに沿った事業所訪問による面談	重要度の高い事業所を優先し、年間スケジュールに沿った事業所訪問による面談	<ul style="list-style-type: none"> <li>若年層の生活習慣の改善指導および重症化予防</li> <li>・二次検査受診勧奨</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>②脂質異常症における課題</li> <li>・改善傾向ではあるが、他組合平均と比較して40～50歳代男性の腹囲及びBMIにおける基準値以上の割合が高くなっている。</li> <li>③高血圧における課題</li> <li>・ファルマを除く(株)明治、グループ会社の被保険者男性において、各年代で他組合平均と比較して、収縮期血圧の基準値(130)以上の割合が高くなっている。</li> <li>④糖尿病における課題</li> <li>・グループ会社の被保険者において、各年代で他組合平均と比較して、HbA1cの基準値(6.5)以上の割合が高くなっている。</li> <li>⑤重症化防止の課題</li> <li>・健診結果において要治療域の緊急性が高い方で多くの未治療者がいる。</li> </ul>	
健康指導事業所人数(【実績値】447人 【目標値】平成30年度：700人 令和元年度：700人 令和2年度：700人 令和3年度：700人 令和4年度：700人 令和5年度：700人)事業所訪問による健康指導												訪問事業所の一人当たり医療費の削減率(【実績値】 - 【目標値】平成30年度：5% 令和元年度：5% 令和2年度：5% 令和3年度：5% 令和4年度：5% 令和5年度：5%)							
4	既存	重症化予防対策	一部の事業所	男女	18～74	被保険者,被扶養者	3	イ,エ,キ,ク,シ	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象者へ事業所担当者を通じ、レター送付</li> <li>・外部業者と連携し通知資料の作成</li> </ul>	ア,イ,サ	事業所業務課との連携(産業医も含む)	事業所業務課との連携し、対象者へレター送付	事業所業務課との連携し、対象者へレター送付 *被扶養者に対する対策検討	事業所業務課との連携し、対象者へレター送付 *被扶養者対象の重症化予防対策スタート	事業所業務課との連携し、対象者へレター送付 *被扶養者対象の重症化予防対策実施	事業所業務課との連携し、対象者へレター送付 *被扶養者対象の重症化予防対策実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>要医療で未受診者の重症化予防</li> <li>・高額医療費の削減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>③高血圧における課題</li> <li>・ファルマを除く(株)明治、グループ会社の被保険者男性において、各年代で他組合平均と比較して、収縮期血圧の基準値(130)以上の割合が高くなっている。</li> <li>④糖尿病における課題</li> <li>・グループ会社の被保険者において、各年代で他組合平均と比較して、HbA1cの基準値(6.5)以上の割合が高くなっている。</li> <li>⑤重症化防止の課題</li> <li>・健診結果において要治療域の緊急性が高い方で多くの未治療者がいる。</li> </ul>	
ハイリスク者に対する受診勧奨件数(【実績値】85件 【目標値】平成30年度：80件 令和元年度：70件 令和2年度：60件 令和3年度：50件 令和4年度：40件 令和5年度：30件)ハイリスク者に対しアンケート形式での受診確認および勧奨を行う。(年2回)												医療機関受診率の向上(【実績値】37% 【目標値】平成30年度：50% 令和元年度：60% 令和2年度：70% 令和3年度：80% 令和4年度：90% 令和5年度：100%)アンケート結果とレセプトを突合し確認							
5	既存	電話健康相談	全て	男女	0～74	加入者全員	1	ア,キ,ケ,ク	<ul style="list-style-type: none"> <li>ファミリー健康相談、メンタル相談、ベストドクター紹介を実施</li> </ul>	ケ,コ,サ	附法研に委託	<ul style="list-style-type: none"> <li>ファミリー健康相談、メンタル相談、ベストドクター紹介を実施</li> <li>・ベストドクターをクロスアップ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ファミリー健康相談、メンタル相談、ベストドクター紹介を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ファミリー健康相談、メンタル相談、ベストドクター紹介を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ファミリー健康相談、メンタル相談、ベストドクター紹介を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ファミリー健康相談、メンタル相談、ベストドクター紹介を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談件数のアップ</li> <li>・早めの相談により早期治療に結びつける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①平均年齢の上昇における課題</li> <li>・現在の加入者構成では、40～44歳被保険者の人数が突出しています。また、40歳以上が57%を超えていて、平均年齢が上昇し続けていることから、今後、医療費がさらに増加していくことが考えられる。</li> </ul>	
相談件数(【実績値】395件 【目標値】平成30年度：500件 令和元年度：500件 令和2年度：500件 令和3年度：600件 令和4年度：600件 令和5年度：600件) ・ホームページ及び広報誌による周知 ・ベストドクターをクロスアップ、認知度および利用率のアップ												(アウトカムは設定されていません)							
												500	500	500	500	500	500		

予算科目	注1)事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2)実施主体	注3)プロセス分類	実施方法	注4)ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連		
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画								
													平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度			令和5年度	
アウトプット指標												アウトカム指標									
5	新規	禁煙キャンペーン	全て	男女	18～74	加入者全員	3	ケ,サ,シ	・広報誌等での啓発活動 ・禁煙ポスターの作成 ・禁煙講演 ・禁煙治療の補助 ・新入社員への禁煙教育	ア,イ,サ	事業主との連携（喫煙所・時間帯等の検討）	・禁煙キャンペーン実施	・禁煙キャンペーン実施 ・禁煙治療の補助	・禁煙キャンペーン実施 ・禁煙治療の補助	・禁煙キャンペーン実施 ・禁煙治療の補助	・禁煙キャンペーン実施 ・禁煙治療の補助	・禁煙キャンペーン実施 ・禁煙治療の補助	・喫煙率の低下 ・健康意識の向上および行動変容	⑦喫煙における課題 ・男女ともにファルマを除く(株明治、グループ会社において、各年代で他組合平均と比較して喫煙率が非常に高くなっている。		
啓発活動内容(件数)【実績値】 - 【目標値】平成30年度:2件 令和元年度:2件 令和2年度:2件 令和3年度:5件 令和4年度:5件 令和5年度:5件)・広報誌等での啓発活動 ・禁煙ポスターの作成 ・禁煙講演 ・新入社員への禁煙教育												男性の喫煙率(【実績値】34.1% 【目標値】平成30年度:33% 令和元年度:32% 令和2年度:31% 令和3年度:30% 令和4年度:29% 令和5年度:28%)健診での問診結果による(JT2018年喫煙率:27.8%)					女性の喫煙率(【実績値】12.1% 【目標値】平成30年度:11% 令和元年度:10% 令和2年度:9% 令和3年度:8% 令和4年度:7% 令和5年度:6%)健診での問診票による(JT2018年喫煙率:8.7%)				
5	既存	ウォーキング	全て	男女	18～74	被保険者	1	ア,ケ,ス	・KENPOSのWEBにてキャンペーン開催し、達成者に対し抽選会を実施 ・事業所対抗の実施	ア,コ,サ,ス	イーウェル社と連携によるKENPOS活用	・KENPOSのWEBにてキャンペーン開催し、達成者に対し抽選会を実施 ・事業所対抗の実施	・KENPOSのWEBにてキャンペーン開催し、達成者に対し抽選会を実施 ・事業所対抗の実施	・KENPOSのWEBにてキャンペーン開催し、達成者に対し抽選会を実施 ・事業所対抗の実施	・KENPOSのWEBにてキャンペーン開催し、達成者に対し抽選会を実施 ・事業所対抗の実施	・KENPOSのWEBにてキャンペーン開催し、達成者に対し抽選会を実施 ・事業所対抗の実施	・参加者のアップ ・従業員の健康増進	①平均年齢の上昇における課題 ・現在の加入者構成では、40～44歳被保険者の人数が突出しています。また、40歳以上が57%を超えていて、平均年齢が上昇し続けていることから、今後、医療費がさらに増加していくことが考えられる。			
参加率のアップ(【実績値】49.5% 【目標値】平成30年度:50% 令和元年度:50% 令和2年度:50% 令和3年度:60% 令和4年度:60% 令和5年度:60%)ポスターを作成し、事前に参加の呼びかけを行う(各事業会社の人事部とのコラボ)事業所対抗も実施予定												-					(アウトカムは設定されていません)				
5	既存	スポーツ助成奨励費	全て	男女	18～74	被保険者	1	ア,ケ,シ	被保険者に対し、事業所のスポーツイベント開催に対し申請ベースで費用補助(一人当たり1,000円)	ア,サ	事業主との連携	申請があった事業所に対しスポーツイベントの費用補助	申請があった事業所に対しスポーツイベントの費用補助	申請があった事業所に対しスポーツイベントの費用補助	申請があった事業所に対しスポーツイベントの費用補助	申請があった事業所に対しスポーツイベントの費用補助	・運動習慣の定着化 ・職場単位での健康増進	①平均年齢の上昇における課題 ・現在の加入者構成では、40～44歳被保険者の人数が突出しています。また、40歳以上が57%を超えていて、平均年齢が上昇し続けていることから、今後、医療費がさらに増加していくことが考えられる。			
実施事業所数(【実績値】65件 【目標値】平成30年度:65件 令和元年度:65件 令和2年度:65件 令和3年度:70件 令和4年度:70件 令和5年度:70件)種目限定を解除して実施。幅広くスポーツ実施を推奨												-					(アウトカムは設定されていません)				
5	既存	スポーツクラブ法人契約	全て	男女	0～74	加入者全員	1	ア,ケ	ホームページ・広報誌等での利用促進をアピール	ア,ス	コナミ・セントラル・ルネサンスと法人契約	法人契約の3つのスポーツクラブを活用し、組合員の健康増進	法人契約の3つのスポーツクラブを活用し、組合員の健康増進	法人契約の3つのスポーツクラブを活用し、組合員の健康増進	法人契約の3つのスポーツクラブを活用し、組合員の健康増進	法人契約の3つのスポーツクラブを活用し、組合員の健康増進	・運動習慣の定着化 ・個人レベルでの健康増進	①平均年齢の上昇における課題 ・現在の加入者構成では、40～44歳被保険者の人数が突出しています。また、40歳以上が57%を超えていて、平均年齢が上昇し続けていることから、今後、医療費がさらに増加していくことが考えられる。			
利用者数のアップ(【実績値】1,300人 【目標値】平成30年度:1,400人 令和元年度:1,400人 令和2年度:1,400人 令和3年度:1,500人 令和4年度:1,500人 令和5年度:1,500人)ホームページ及び広報誌による周知												-					数値化が困難なため(アウトカムは設定されていません)				
その他	8	既存	契約保養所	全て	男女	0～74	加入者全員	1	ア	ホームページ・広報誌等での利用促進をアピール	ス	森トラスト(ラフォーレ)・東急リゾート社(東急ハーベスト)との連携	ホームページ及び広報誌による周知	ホームページ及び広報誌による周知	ホームページ及び広報誌による周知	ホームページ及び広報誌による周知	ホームページ及び広報誌による周知	・従業員および家族の癒し	該当なし(これまでの経緯等で実施する事業)		
施設利用者数(【実績値】2,000人 【目標値】平成30年度:2,100人 令和元年度:2,200人 令和2年度:2,300人 令和3年度:2,400人 令和4年度:2,500人 令和5年度:2,600人)ホームページ及び広報誌による勧誘・周知												-					検証が難しい。(アウトカムは設定されていません)				
予算措置なし	8	既存	家庭常備薬の斡旋	全て	男女	18～74	加入者全員	1	ア	広報誌にて斡旋案内を同封。	ス	セルメスタ・白石薬品に委託 今後一社体制を検討	広報誌にて斡旋案内を同封。	広報誌にて斡旋案内を同封。	広報誌にて斡旋案内を同封。	広報誌にて斡旋案内を同封。	広報誌にて斡旋案内を同封。	・市販薬を低価格で斡旋	該当なし(これまでの経緯等で実施する事業)		
申込件数(【実績値】250件 【目標値】平成30年度:260件 令和元年度:270件 令和2年度:280件 令和3年度:290件 令和4年度:300件 令和5年度:300件)・年間2回機関紙に申込書同封												-					数値化が困難なため(アウトカムは設定されていません)				

注1) 1. 職場環境の整備 2. 加入者への意識づけ 3. 健康診査 4. 保健指導・受診勧奨 5. 健康教育 6. 健康相談 7. 後発医薬品の使用促進 8. その他の事業  
注2) 1. 健保組合 2. 事業主が主体で保健事業の一部としても活用 3. 健保組合と事業主との共同事業  
注3) ア. 加入者等へのインセンティブを付与 イ. 受診状況の確認(要医療者・要精密検査者の医療機関受診状況) ウ. 受診状況の確認(がん検診・歯科健診の受診状況) エ. ICTの活用(情報作成又は情報提供でのICT活用など) オ. 専門職による対面での健診結果の説明 カ. 他の保険者と共同で集計データを持ち寄って分析を実施  
キ. 定量的な効果検証の実施 ク. 対象者の抽出(優先順位づけ、事業所の選定など) ケ. 参加の促進(選択制、事業主の協力、参加状況のモニタリング、環境整備) コ. 健診当日の面談実施・健診受診の動線活用 サ. 保険者以外が実施したがん検診のデータを活用 シ. 事業主と健康課題を共有 ス. その他  
注4) ア. 事業主との連携体制の構築 イ. 産業医または産業保健師との連携体制の構築 ウ. 専門職との連携体制の構築(産業医・産業保健師を除く) エ. 他の保険者との共同事業 オ. 他の保険者との健診データの連携体制の構築 カ. 自治体との連携体制の構築 キ. 医療機関・健診機関との連携体制の構築 ク. 保険者協議会との連携体制の構築  
ケ. その他の団体との連携体制の構築 コ. 就業時間内も実施可(事業主と合意) サ. 運営マニュアルの整備(業務フローの整理) シ. 人材確保・教育(ケースカンファレンス/ライブラリーの設置) ス. その他